

Systemwalker Resource Coordinator V13.2



トラブルシューティングガイド

J2X1-4510-06Z0(00)

はじめに

本書は、Systemwalker Resource Coordinator(以下、リソースコーディネータ)の導入時や運用時にトラブルが発生した場合の対処方法についてまとめたガイドブックです。

■ 本書の読者

本書は、リソースコーディネータを使用したシステムの導入、運用および保守を行う運用管理者を対象にします。

■ 本書の構成

本書は、第1章～第4章で構成されています。各章の内容は以下のとおりです。

章タイトル	内容
第1章 導入時のトラブル	リソースコーディネータの導入時に発生する可能性があるトラブルと対処方法について説明しています。
第2章 運用時のトラブル	リソースコーディネータを導入した環境において、運用時に発生する可能性があるトラブルと対処方法について説明しています。
第3章 増設時のトラブル	リソースコーディネータの増設時に発生する可能性があるトラブルと対処方法について説明しています。
第4章 その他のトラブル	ハードウェアやOS固有のトラブルなどについて説明しています。
第5章 トラブル調査情報の採取	システムで問題が発生した場合のトラブル調査情報の採取方法について説明しています。

■ 本書の表記について

本書中の表記方法は、以下のとおりです。

- 参照先は「」でくくります。
- メニュー名は[]でくくります。
- ボタン名は<>でくくります。
- メニューの選択順を[]-[]の形式で示します。
- 特に強調が必要な文字列、数値を” ”でくくります。
- コマンド使用例などの例の記述には、<例>（見出し）をつけます。



- **ポイント** ポイントとなる内容について説明します。



- **注意** 注意する項目について説明します。



- **参考** 参考となる内容について説明します。



- **参照** 参照するマニュアル名などを説明します。

■ マニュアル体系

リソースコーディネータのマニュアルには、以下のものがあります。必要に応じてマニュアルをお読みください。

- Systemwalker Resource Coordinator コンセプトガイド
- Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド
- Systemwalker Resource Coordinator コマンドリファレンス
- Systemwalker Resource Coordinator メッセージ集
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編
- Systemwalker Resource Coordinator メッセージ説明書 ストレージ管理編
- Systemwalker Resource Coordinator イベント説明書
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 仮想ボリューム管理編
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド Web-Based Admin View編
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 仮想ストレージ管理編
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド リモートコンソールマネージャ編
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 統合インストーラ編
- Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド サーバ管理編

■ 関連マニュアル

以下のマニュアルを必要に応じて参照してください。

- PRIMECLUSTER 導入運用手引書
- PRIMECLUSTER Global Link Services 説明書(伝送路二重化機能編)
- IPCOM シリーズ 取扱説明書
- SH シリーズ 取扱説明書
- ServerView ユーザーズガイド
- ハードウェアガイド マネジメントブレード編

■ 略称

正式名称	略語
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003 Enterprise Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition	Windows Server 2003 Standard Edition
Microsoft® Windows® 2000 Server operating system	Windows 2000 Server
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system	Windows 2000 Advanced Server
Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system	Windows 2000 Pro
Microsoft® Windows® XP operating system	Windows XP
Solaris™ オペレーティングシステム	Solaris OS
Solaris™ 9 オペレーティングシステム	Solaris 9 OS
Solaris™ 10 オペレーティングシステム	Solaris 10 OS

- 次の製品すべてを指す場合は、「Windows」と表記します。
 - Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition
 - Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition
 - Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition
 - Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition

Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition
Microsoft® Windows® 2000 Server operating system
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system
Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
Microsoft® Windows® XP Professional operating system
Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system

- 次の製品すべてを指す場合は、「Windows 2003」と表記します。
Microsoft® Windows Server®2003, Standard Edition
Microsoft® Windows Server®2003, Enterprise Edition
Microsoft® Windows Server®2003 R2, Standard Edition
Microsoft® Windows Server®2003 R2, Enterprise Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition
- 次の製品すべてを指す場合は、「Windows 2000」と表記します。
Microsoft® Windows® 2000 Server operating system
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system
Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
- 次の製品すべてを指す場合は、「Linux」と表記します。
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) AS (v.3 for x86)
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) ES (v.3 for x86)
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) AS (v.4 for x86)
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) ES (v.4 for x86)
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) AS (v.4 for EM64T)
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) ES (v.4 for EM64T)
Red Hat Enterprise Linux 5 (for x86)
Red Hat Enterprise Linux 5 (for Intel64)
- 次の製品を「リソースコーディネータ」と表記します。
Systemwalker Resource Coordinator
- 次の製品を「PCL」と表記します。
PRIMECLUSTER
- 次の製品を「GLS」と表記します。
PRIMECLUSTER Global Link Services

◆ 製品固有記事の表記について

本書には、提供する製品固有の情報、および共通の情報が含まれているため、事象ごとの先頭ページに記載しているトラブル一覧において、以下のような記述をすることで、どの製品で発生する現象なのかを判断できるようにしています。

記載記事の対象	表記
Site	サイトマネージャ

記載記事の対象	表記
Domain	ドメインマネージャ
Agent	エージェント
Solaris版 固有記事 (Solaris版の場合だけ発生する現象)	【S】
Linux版 固有記事 (Linux版の場合だけ発生する現象)	【L】
Windows版 固有記事 (Windows版の場合だけ発生する現象)	【W】
Solaris版とLinux版の両製品で発生する現象	【S/L】
Linux版とWindows版の両製品で発生する現象	【L/W】
共通記事 (Solaris版、Linux版、Windows版の製品で発生する現象)	“共通”

■ 輸出管理規制表記

当社ドキュメントには、外国為替および外国貿易管理法に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

■ 商標について

- Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Solaris およびすべての Solaris に関連する商標およびロゴは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標であり、同社のライセンスを受けて使用しています。
- Netscape、Netscape Navigator は、米国 Netscape Communications Corporation 社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows XP、Windows2000、Windows2003 および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Red Hat、RPM および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Systemwalker は、富士通株式会社の登録商標です。
- PRIMECLUSTER は、富士通株式会社の登録商標です。
- その他各種製品名は、各社の製品名称、商標または登録商標です。

お願い

- 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

2007年12月 第2版

All Rights Reserved, Copyright(C) 富士通株式会社 2007

目次

第1章	導入時のトラブル	1
1.1	インストールに関するトラブル.....	2
1.2	管理対象サーバノードの登録に関するトラブル.....	4
1.3	ストレージ装置の登録に関するトラブル.....	25
1.4	統合インストーラに関するトラブル.....	28
1.5	リモートコンソールマネージャに関するトラブル.....	29
1.6	仮想ボリューム管理機能に関するトラブル.....	30
第2章	運用時のトラブル	31
2.1	基本的な設定に関するトラブル.....	32
2.2	運用全般に関するトラブル.....	34
2.3	管理対象サーバノードの追加に関するトラブル.....	40
2.4	管理対象サーバノードの削除に関するトラブル.....	53
2.5	マスタイメージの作成・配付・複写に関するトラブル.....	54
2.6	管理ソフトウェア(SERVERVIEW)に関するトラブル.....	69
2.7	性能管理機能に関するトラブル.....	72
2.8	調査資料採取コマンドに関するトラブル.....	75
2.9	リモートコンソールマネージャに関するトラブル.....	77
2.10	仮想ボリューム管理機能に関するトラブル.....	78
2.11	部品のGUI表示に関するトラブル.....	79
2.12	クライアント (GUI) 画面表示機能に関するトラブル.....	81
2.13	自動リカバリに関するトラブル.....	83
第3章	増設時のトラブル	84
3.1	管理対象サーバノードの登録に関するトラブル.....	85
第4章	その他のトラブル	87
4.1	ハードウェアリソース障害に対する保守.....	88
4.2	サイト管理サーバのシステムダウン、またはフェイルオーバー発生時のリカバリ.....	96
4.3	アンインストールに関するトラブル.....	101
第5章	トラブル調査情報の採取	102
5.1	トラブル調査資料の採取方法.....	103

第1章 導入時のトラブル

本章では、リソースコーディネータの導入時に発生するトラブルの対処方法について説明します。

1.1 インストールに関するトラブル

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
1.1.1	ネットワークブートツールで「ディスクレスディレクトリはエクスポートした NFS にし、ひとつのブートサブディレクトリを持たせてください。」というエラーダイアログが表示される。	L	L	L

1.1.1 ネットワークブートツールで「ディスクレスディレクトリはエクスポートしたNFSにし、ひとつのブートサブディレクトリを持たせてください。」というエラーダイアログが表示される。

現象

ネットワークブートツールの[ディスクレス環境の更新]-[NFS 情報を入力します。]の画面で「サーバー」および「ディレクトリ」の項目を入力して [進む] ボタンをクリックしたときに、以下のエラーダイアログが表示される。

「ディスクレスディレクトリはエクスポートしたNFSにし、ひとつのブートサブディレクトリを持たせてください。」

対処

以下の手順で対処してください。

- 1) 以下の入力項目に正しい値が入力されているか確認してください。
 - 「サーバー」にドメイン管理サーバの管理対象サーバノード側のIP アドレスが入力されていること
 - 「ディレクトリ」に"/diskless/i386/RHEL3/default/root/"が入力されていること

正しい値が入力されていない場合は、正しい値を入力して、<進む>ボタンを押してください。正しい値を入力後に<進む>ボタンを押しても現象が変化しない場合、または正しい値が入力されている場合は2)を確認してください。

- 2) 「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.2.8.3 OSイメージの登録」に記述されている設定となっているか確認してください。間違っていた場合は、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.2.8.3 OSイメージの登録」の手順を再度実施してください。
- 3) /diskless/i386/RHEL3/default/root/配下に、ファイル、ディレクトリがあるか確認してください。
 - ファイル、ディレクトリが存在しない場合は、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.3 OSイメージのドメイン管理サーバへの転送」が行われていない可能性があります。
 - ファイル、ディレクトリが存在した場合は、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.3 OSイメージのドメイン管理サーバへの転送」が正常に終了していない可能性があります。

以下のコマンドを実行後に、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.3 OSイメージのドメイン管理サーバへの転送」を行ってください。

```
# /opt/FJSVrcxdm/sbin/rcxpoolosing delete  
Image of server pool management OS will be deleted.  
Are you sure(y/n)? y
```

1.2 管理対象サーバノードの登録に関するトラブル

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
1.2.1	管理対象サーバノードの登録を行った後、状態が“unknown”のままとなる。	L	L	-
1.2.2	管理対象サーバノードのコンソールにDHCPからの応答がないことを示すメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。	L	L	-
1.2.3	管理対象サーバノードのコンソールにTFTPのtimeoutを示すメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。	L	L	-
1.2.4	管理対象サーバノードの登録後、長時間経過しても登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。	L	L	-
1.2.5	管理対象サーバノードのコンソールに“mount: RPC: Program not registered”というメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。	L	L	-
1.2.6	管理対象サーバノードのコンソールに“mount: RPC: Timed out”というメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。	L	L	-
1.2.7	管理対象サーバノードの登録時に「FJSVrcx:OR:41105」または「FJSVrcx:ERROR:67193」メッセージが出力される。	L	L	L/W
1.2.8	管理対象サーバノードの登録後にサーバのステータスがunknownになる。	共通	共通	共通
1.2.9	サーバ指定登録において[登録]ボタンをクリックした後、30分以上経過してもサーバの状態が“normal”にならない。	L/W	L/W	L/W
1.2.10	管理対象サーバノードの登録時、イベントログにエラーメッセージが表示される。	L	L	-
1.2.11	管理対象サーバノードの登録に失敗したが、紫色のアイコンが残る。	共通	共通	共通
1.2.12	管理対象サーバノードの登録時、「FJSVrcx:ERROR:swsag0018」メッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。	L	L	-
1.2.13	管理対象サーバノードのシステムログにNFSのエラーを示すメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。	L	L	-
1.2.14	管理対象サーバノードの登録後に、クライアントのイベントログに「Authentication Failure Trap」が繰り返し出力される。	L	L	L
1.2.15	管理対象サーバノードの登録に失敗する。	W	W	W
1.2.16	サーバ保守やサーバ追加などのためにサーバブレードの抜き差しをした後、同一筐体内のサーバブレードのサーバプロビジョニングを利用しないサーバノード登録が出来なくなる。	L/W	L/W	L/W

1.2.1 管理対象サーバノードの登録を行った後、状態が“unknown”のままとなる。

現象

管理対象サーバノードの登録後、長時間経過しても状態が“unknown”のままとなっている。
管理対象サーバノードのコンソールにはLinuxのログインプロンプトが出力されており、サーバブレード管理OSが起動した状態となっている。

対処

以下の原因が考えられます。

- ドメイン管理サーバの時刻と、管理対象サーバノードの時刻が一致していない。
ドメイン管理サーバの時刻が、管理対象サーバノードよりも5分以上過去の時刻になっていると本現象が発生する可能性があります。

以下の対処を実施してください。

- 1) ドメイン管理サーバと管理対象サーバノードの時刻を一致させてください。
管理対象サーバノードにPRIMERGYブレードサーバを使用している場合、マネジメントブレードの時刻と同期する設定になっていることがあります。BIOSの設定を確認し、同期する設定となっている場合は、マネジメントブレードの時刻も一致させるようにしてください。

各BIOSの設定の詳細情報については、各機種のマニュアルを参照してください。

- 2) 管理対象サーバノードのServerViewを再起動します。

```
# /etc/init.d/srvmagt restart
```

- 管理対象サーバノードのServerViewの起動に失敗した可能性があります。
管理対象サーバノード上で以下のコマンドを実行し、ServerView が動作しているかを確認してください。動作していない場合、本現象と判断できます。

```
# /etc/init.d/srvmagt status
```

以下の対処を実施してください。

- 1) 管理対象サーバノードのsnmpd, ServerViewを再起動します。

```
# /etc/init.d/snmpd restart
```

```
# /etc/init.d/srvmagt restart
```

1.2.2 管理対象サーバノードのコンソールにDHCPからの応答がないことを示すメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

現象

管理対象サーバノードの登録を行った後、長時間経過しても登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

管理対象サーバノードのコンソールには以下のメッセージが出力され、数分後にDHCPからの応答がなかった旨のメッセージが出力される。OSの起動処理がその時点で停止している。

```
CLIENT MAC ADDR: 00 30 05 46 74 3E GUID: 00000000 0000 0000 0000 00300546743E  
DHCP.... /
```

DHCP からの応答がなかったことを示すメッセージは、LAN カードの種類によって異なります。たとえば、BX600 のオンボード LAN の場合、以下のようなメッセージが出力されます。

例) BX600のオンボードLANの場合

```
PXE-E51: No DHCP or proxyDHCP offers were received.  
PXE-MOF: Exiting Broadcom PXE ROM.
```

対処

以下の確認と対処を実施し、対象サーバを再起動してください。

- 1) 管理対象サーバノードが複数の NIC を持つ場合で、BIOS のブートデバイスに設定する NIC の指定に誤りがある可能性があります。(別の NIC からブートする設定となっている可能性があります)

【確認方法】

“CLIENT MAC ADDR:”の後に、起動したNICのMACアドレスが出力されます。このMACアドレスが、管理LANとして使用するNICのMACアドレスと一致していない場合に、本原因と判断できます。

【対処方法】

管理対象サーバノードのBIOSの設定を、管理LANのNICからブートする設定に変更してください。BIOSの設定方法は各サーバ、または使用しているLANカードのマニュアルを参照してください。

- 2) 管理対象サーバノードが管理 LAN と異なるサブネットに所属している可能性があります。

【確認方法】

管理対象サーバノードが所属しているネットワークの構成を確認してください。

【対処方法】

管理対象サーバノードを管理LANと同一のサブネットに所属させてください。

- 3) LANケーブルの結線が誤っている可能性があります。

【確認方法】

ドメイン管理サーバと管理対象サーバ間の管理LANが、結線されているか確認してください。

【対処方法】

LANケーブルが結線されていない場合、正しくLANケーブルを接続してください。

- 4) スイッチブレード、スイッチングハブの設定が誤っている可能性があります。

【確認方法】

スイッチブレード、スイッチングハブにログインし、ドメイン管理サーバと管理対象サーバ間の通信で使用されるポートのvlan設定が正しく設定されているか確認してください。以下、スイッチブレードの確認方法を例に説明します。

例：管理対象サーバがスイッチブレードの“port1”に接続され、ドメイン管理サーバとの通信は、スイッチブレードの“port11”を使用している構成の確認方法を示します。

1. スイッチブレードにログインします。

```
# telnet <管理LAN用スイッチブレードのIPアドレス>  
Username: <ユーザ名>  
Password: <パスワード>
```

2. 現在の設定内容を確認します。

以下の出力から、port1とport11に異なるvlanが設定されているため、通信が行えていないことが確認できます。

```
Vty-0#show running-config
```

```

building running-config, please wait.....
!
!
...<省略>...
!
interface ethernet 1/1
  switchport allowed vlan add 1 untagged
  switchport native vlan 1
  bridge-group 1 portfast
...<省略>...
!
interface ethernet 1/11
  switchport allowed vlan add 10 untagged
  switchport native vlan 10
  switchport allowed vlan remove 1
...<省略>...

```

【対処方法】

スイッチブレード、スイッチングハブの対象portに、正しくvlanの設定を行ってください。
以下にスイッチブレードの対象方法例を示します。

例：管理対象サーバがスイッチブレードの“port1”に接続され、ドメイン管理サーバとの通信は、スイッチブレードの“port11”を使用している構成の確認方法を示します。

1. スイッチブレードにログインします。

```

# telnet <管理LAN用スイッチブレードのIPアドレス>
Username: <ユーザ名>
Password: <パスワード>

```

2. 現在の設定内容を確認します。

```

Vty-0#show running-config <RETURN>
building running-config, please wait.....
!
!
...<省略>...
!
interface ethernet 1/1
  switchport allowed vlan add 1 untagged
  switchport native vlan 1
  bridge-group 1 portfast
...<省略>...
!
interface ethernet 1/11
  switchport allowed vlan add 10 untagged
  switchport native vlan 10
  switchport allowed vlan remove 1
...<省略>...

```

3. port11のvlan設定を変更します。

```
Vty-0#configure <RETURN>
Vty-0(config)#interface ethernet 1/11 <RETURN>
Vty-0(config-if)#switchport native vlan 1 <RETURN>
Vty-0(config-if)#switchport allowed vlan remove 10 <RETURN>
Vty-0(config-if)#exit <RETURN>
Vty-0(config)#exit <RETURN>
```

4. 設定内容を確認します。

```
Vty-0#show running-config <RETURN>
building running-config, please wait.....
!
!
...<省略>...
!
interface ethernet 1/1
  switchport allowed vlan add 1 untagged
  switchport native vlan 1
  bridge-group 1 portfast
...<省略>...
!
interface ethernet 1/11
  switchport allowed vlan add 1 untagged
  switchport native vlan 1
...<省略>...
```

5) 運用管理サーバが Linux の場合、ドメイン管理サーバのルーティングの設定が不適切である可能性があります。

【確認方法】

ドメイン管理サーバで、以下のコマンドを実行してください。

```
# /sbin/route
```

<コマンド実行例>

```
# /sbin/route
```

Kernel IP routing table

Destination	Gateway	Genmask	Flags	Metric	Ref	Use	Iface
<u>255.255.255.255</u>	<u>*</u>	<u>255.255.255.255</u>	<u>UH</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>eth0</u>
192.168.0.0	*	255.255.255.0	U	0	0	0	eth0
169.254.0.0	*	255.255.0.0	U	0	0	0	eth1
127.0.0.0	*	255.0.0.0	U	0	0	0	lo
default	somewhere-gw	0.0.0.0	UG	0	0	0	eth1

※上記の例では管理LAN側のNICはeth0、デフォルトゲートウェイはsomewhere-gw

上記コマンドの出力結果で、下線部分が設定されていない場合のうち、以下のいずれかの条件を満たす場合、本件に該当します。

1. “Destination”の項目に“default”と表示されている行が存在しない場合

2. “Destination”の項目に“default”と表示されている行が存在し、“Iface”の項目に管理LAN側ではないNICが設定されている場合

【対処方法】

以下の手順を実施します。

- 1) 次のファイルを編集します。

- /etc/sysconfig/network-scripts/route-*device_name*

device_name は、ドメイン管理サーバの管理対象サーバノード側のネットワークインタフェース名となります。

<例> ドメイン管理サーバの管理対象サーバノード側のインタフェース名が eth0 の場合

```
# vi /etc/sysconfig/network-scripts/route-eth0
```

- 2) 上記設定ファイルに以下のようなエントリを追加します。

- NETMASK#255.255.255.255

- ADDRESS#255.255.255.255

には 0 から始まるインデックス番号が入ります。すでに route-*device_name* にエントリが記述されていた場合、最後のエントリのインデックス番号に 1 を加えたものを使用します。

<例> route-*device_name* ファイルにエントリがなかった場合

```
NETMASK0=255.255.255.255
```

```
ADDRESS0=255.255.255.255
```

- 6) 基本ドメインへのサーバノードの登録を行う際に、指定したMACアドレスが誤っている可能性があります。

【確認方法】

“CLIENT MAC ADDR:”の後に、起動したNICのMACアドレスが出力されます。

このMACアドレスが、サーバノードの登録時に指定したMACアドレスと一致していることを確認してください。

MACアドレス指定でサーバ登録する場合、管理LANとして使用するNICのMACアドレスを指定する必要があります。

【対処方法】

基本ドメインへのサーバノードの登録を行う際に、指定したMACアドレスを確認し、再登録してください。

1.2.3 管理対象サーバノードのコンソールにTFTPのtimeoutを示すメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

現象

管理対象サーバノードの登録を行った後、長時間経過しても登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

管理対象サーバノードのコンソールには以下のメッセージが出力され、その後、TFTPのtimeoutを示すメッセージが出力された状態でハングアップしている。

```
CLIENT MAC ADDR: 00 30 05 46 74 3E  GUID: 00000000 0000 0000 0000 00300546743E
CLIENT IP: 192.168.0.234  MASK: 255.255.255.0  DHCP IP: 192.168.0.232
TFTP....
```

TFTP の timeout を示すメッセージは、LAN カードの種類によって異なります。
たとえば、BX600 のオンボード LAN の場合、以下のようなメッセージが出力されます。

例) BX600のオンボードLANの場合

```
PXE-E32: TFTP open timeout
PXE-E32: TFTP open timeout
PXE-MOF: Exiting Broadcom PXE ROM.
```

対処

以下の原因が考えられます。それぞれの原因について確認と対処を実施後、管理対象サーバノードを再起動してください。

- 1) ドメイン管理サーバと同じ管理 LAN のサブネットにおいて、リソースコーディネータ用 DHCP サーバ以外の DHCP サーバが起動している可能性があります。

【確認方法】

“DHCP IP:”の後に出力されるIPアドレスが、ドメイン管理サーバのIPアドレスと一致しているか確認してください。一致していない場合、本原因と判断できます。

【対処方法】

“DHCP IP:”の後に出力されているIPアドレスのサーバのサービス設定を確認してください。DHCPサービスが起動している場合は、サービスを停止してください。サービスの停止、設定の確認方法については、そのサーバで動作しているOSのマニュアル、ヘルプなどを参照してください。

- 2) ドメイン管理サーバでリソースコーディネータ用 TFTP サービスが起動していない可能性があります。

ドメイン管理サーバが Linux の場合、以下の確認と対処を実施してください。

【確認方法】

ドメイン管理サーバにおいて/etc/rc.d/init.d/scwftpd statusを実行してください。

```
# /etc/rc.d/init.d/scwftpd status
scwftpdは停止しています
```

「停止しています」というメッセージが出力された場合、本原因と判断できます。

【対処方法】

以下のコマンドを実行し、リソースコーディネータ用のTFTPサービスを起動してください。

```
# /etc/rc.d/init.d/scwftpd start
```

また、以下のコマンドを実行し、リソースコーディネータ用TFTPサービスを有効にしてください。

```
# /opt/FJSVscw-common/sys/scwconfig -r
```

運用管理サーバがWindowsの場合、以下の確認と対処を実施してください。

【確認方法】

[コントロール パネル]-[管理ツール]-[サービス] を起動します。

“TFTP Service” の状態を確認し、“開始”になっていなければ、本原因と判断できます。

【対処方法】

[コントロール パネル]-[管理ツール]-[サービス] にて “TFTP Service” を右クリックし、表示されるコンテキストメニューから [開始] を選択してください。

- 3) ドメイン管理サーバの管理対象サーバノード側の IP アドレスを変更した際の手順が誤っている可能性があります。

【確認方法】

“DHCP IP :”の後に、管理対象サーバノードから接続するドメイン管理サーバの管理対象サーバノード側のIPアドレスが表示されます。この値が変更後のIPアドレスと一致しているこ

とを確認してください。

【対処方法】

変更前のIPアドレスが出力されている場合、マニュアルに記載しているIPアドレスの変更手順を再度実施してください。

1.2.4 管理対象サーバノードの登録後、長時間経過しても登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

現象

管理対象サーバノードの登録を行った後、長時間経過しても登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

さらに、管理対象サーバノードのコンソールに以下のメッセージが出力された状態でOSの起動処理がハングアップしており、Linuxのログインプロンプトも表示されない。

```
CLIENT MAC ADDR: 00 30 05 46 74 3E GUID: 00000000 0000 0000 0000 00300546743E
CLIENT IP: 192.168.0.234 MASK: 255.255.255.0 DHCP IP: 192.168.0.232
```

対処

以下原因が考えられます。

サーバプール管理 OS の構築において、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.2.8.5 ブート設定」の手順を実施していない、または正しく実施できていない可能性があります。

【確認方法】

ドメイン管理サーバの以下のファイルのファイルサイズを確認してください。
/var/opt/FJSVscw-tftpsv/tftproot/linux-install/pxelinux.0

ファイルサイズが0の場合、本原因と判断できます。

【対処方法】

「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.2.8.5 ブート設定」の手順を実施後、管理対象サーバノードを再起動してください。

- 1) サーバプール管理 OS の構築において、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.2.8.5 ブート設定」の手順を実施していない、または正しく実施できていない可能性があります。

【確認方法】

デプロイメントサーバの以下のファイルのファイルサイズを確認してください。
<SystemcastWizard Professionalインストールディレクトリ>%tftp%linux-install%pxelinux.0

ファイルサイズが0の場合、上記いずれかの原因と判断できます。

【対処方法】

「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.2.8.5 ブート設定」の手順を実施後、管理対象サーバノードを再起動してください。

1.2.5 管理対象サーバノードのコンソールに“mount: RPC: Program not registered”というメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

現象

管理対象サーバノードの登録を行った後、長時間経過しても登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

管理対象サーバノードのコンソールには以下のメッセージが出力され、その後、“mount: RPC: Program not registered”というメッセージが出力されて起動に失敗する。

OSの起動処理がその時点で停止しており、Linuxのログインプロンプトも表示されない。

```
Mounting root filesystem: /diskless/i386/RHEL3/default from: 192.168.0.231
mount: RPC: Program not registered
```

```
ERROR! Failed to mount the root directory via NFS!
```

```
Possible reasons include:
```

- 1) NFS services may not be running on the server
- 2) Workstation IP does not map to a hostname, either in /etc/hosts, or in DNS
- 3) Wrong address for NFS server in the DHCP config file
- 4) Wrong pathname for root directory in the DHCP config file

```
Kernel panic: Attempted to kill init!
```

対処

以下の確認と対処を実施後、管理対象サーバノードを再起動してください。

- 「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.2.8.4 ネットワークブートツールの起動」において、ドメイン管理サーバの IP アドレスの設定に誤りがある可能性があります。

【確認方法】

“Mounting root filesystem:”の行に出力されているIPアドレスが、ドメイン管理サーバのIPアドレスと一致しているか確認してください。一致していない場合、本原因と判断できません。

【対処方法】

以下の手順でサーバブール管理OSを再作成してください。

- ① ドメイン管理サーバでrcxpoolosing deleteを実行します。
/opt/FJSVrcxdm/sbin/rcxpoolosing delete
- ② 「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.2.8 サーバブール管理 OS のシステムボリュームの構築」から「4.3.3 OS イメージのドメイン管理サーバへの転送」までの手順を実施します。

- ドメイン管理サーバでNFSサーバが起動していない可能性があります。

【確認方法】

ドメイン管理サーバにおいて/etc/init.d/nfs statusを実行してください。

```
# /etc/init.d/nfs status
rpc.mountdは停止しています
nfsdは停止しています
rpc.rquotadは停止しています
```

「停止しています」というメッセージが出力された場合、本原因と判断できます。

【対処方法】

- ① 以下のコマンドを実行し、NFSサーバを起動させてください。
/etc/init.d/nfs start
- ② ドメイン管理サーバ上で以下のコマンドを実行し、起動時にNFSサーバが起動する設

定となっているか確認してください。

```
# chkconfig --list nfs
nfs          0:オフ  1:オフ  2:オフ  3:オフ  4:オフ  5:オフ  6:オフ
```

3から5までが1つでも「オフ」と表示される場合、NFSサーバが正しく起動できる設定になっていません。以下のコマンドを実行し、起動時にNFSサーバを起動する設定としてください。

```
# chkconfig nfs on
```

1.2.6 管理対象サーバノードのコンソールに“mount: RPC: Timed out”というメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

現象

管理対象サーバノードの登録を行った後、長時間経過しても登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

管理対象サーバノードのコンソールには以下のメッセージが出力され、その後、“mount: RPC: Timed out ” というメッセージが出力されて起動に失敗する。

OSの起動処理がその時点で停止しており、Linuxのログインプロンプトも表示されない。

```
Mounting root filesystem: /diskless/i386/RHEL3/default from: <ドメイン管理サーバのIP>
mount: RPC: Timed out
```

```
ERROR! Failed to mount the root directory via NFS!
```

```
Possible reasons include:
```

- 1) NFS services may not be running on the server
- 2) Workstation IP does not map to a hostname, either in /etc/hosts, or in DNS
- 3) Wrong address for NFS server in the DHCP config file
- 4) Wrong pathname for root directory in the DHCP config file

```
Kernel panic: Attempted to kill init!
```

<ドメイン管理サーバのIP> : ドメイン管理サーバの管理対象サーバノード側の管理LANのIPアドレス

対処

以下の確認と対処を実施してください。

- ドメイン管理サーバのデフォルトゲートウェイの設定が不適切である可能性があります。

【確認方法】

ドメイン管理サーバにおいて、以下のコマンドを実行してネットワークのルーティングを確認してください。

```
# /sbin/route
Kernel IP routing table
Destination Gateway Genmask Flags Metric Ref Use Iface
XXX.YYY.ZZZ.0 * 255.255.255.0 U 0 0 0 eth0
169.254.0.0 * 255.255.0.0 U 0 0 0 eth0
127.0.0.0 * 255.0.0.0 U 0 0 0 lo
default aaa.bbb.ccc.ddd 0.0.0.0 UG 0 0 0 eth0
```

上記のようにデフォルトゲートウェイ (Destinationがdefault, FlagsがUGである行) が設定され、そのゲートウェイと通信ができない場合、本現象であると判断できます。

【対処方法】

以下の手順でデフォルトゲートウェイを適切な値に修正してください。

1. ドメイン管理サーバ上で以下のファイルをエディタで編集します。
 - /etc/sysconfig/network-scripts/ifcfg-ethN¹
 - /etc/sysconfig/network
2. GATEWAY=www.xxx.yyy.zzzの行が存在する場合、適切なIPアドレスに変更、あるいはこの行を削除します
3. 以下のコマンドを実行します
/etc/init.d/network restart

¹ethN は上記defaultの行末に記載されたNICを指します(上記例の場合、eth0)

1.2.7 管理対象サーバノードの登録時に「FJSVrcx:WARNING:41105」 または「FJSVrcx:ERROR:67193」メッセージが出力される。

現象

サーバ登録において、下記のどちらかのメッセージが出力される。

```
FJSVrcx:WARNING:41105:failed to get ther server information from server  
FJSVrcx:ERROR:67193: command:communication error.target=target
```

対処

下記の確認を実施してください。

- 1) サーバ管理装置のIPアドレスが正しく設定され、動作していること。
Webブラウザで、サーバ管理装置にアクセスしてください。
正しくサーバ管理装置のWeb画面が出ない場合は、サーバ管理装置のマニュアルを参照し、IPアドレスを確認してください。
IPアドレスが正しい場合は、サーバ管理装置がダウンしている可能性が高いため、サーバ管理装置のリセットを実行してください。

例) # mozilla http://192.168.0.15/
注) サーバ管理装置の設定でhttps/違うポート番号が設定されていることがあります。
その際は設定を管理者に問い合わせてください。
- 2) サーバ管理装置のSNMPコミュニティの設定を確認してください。
GUIで設定したSNMPコミュニティ名、または サーバ登録コマンド(rcxserver create)のsnmpオプションで指定したSNMPコミュニティ名が、read/write許可されているか確認してください。

例) # mozilla http://192.168.0.15/
でアクセスし、SNMP configurationで確認。
- 3) 管理対象サーバノードのSNMPコミュニティの設定を確認してください。
GUIで設定したSNMPコミュニティ名、または サーバ登録コマンド(rcxserver create)のsnmpオプションで指定したSNMPコミュニティ名が、read許可されているか確認してください。
何も指定しない場合のSNMPコミュニティ名は、public となります。

例)

【Linuxの場合】

- /etc/snmp/snmpd.confの下記の行の“public”の箇所が指定したSNMPコミュニティ名になっているか確認します。

```
-----  
com2sec svSec    localhost    public  
com2sec svSec    default     public  
    (中略)  
trapsink 127.0.0.1 public  
-----
```

下記のファイルに“SnmpCommunity = コミュニティ名”が記載されているか。

```
etc/srvmagt/versionview.ini  
/etc/srvmagt/status_agent.ini
```

【Windowsの場合】

コントロールパネル→[管理ツール]→[サービス]→[SNMP Service]→[プロパティ]→[セキュリティ]→[受け付けるコミュニティ名]で指定したSNMPコミュニティ名に読み取りの許可があるか。

1.2.8 管理対象サーバノード登録後にサーバのステータスがunknownになる。

現象

管理対象サーバノードが稼動中にもかかわらず、状態がUnknownとなる。

対処

以下の原因が考えられます。

- サイト管理サーバとドメイン管理サーバの間に設置されたファイアウォールの設定により、通信が遮断された。
- 管理対象サーバノードのホスト名が変更された。
- 管理対象サーバノードのIPアドレスが間違っている。
- ServerView がインストールされていない。

以下の確認と対処を実施してください。

- 1) サイト管理サーバがインストールされているマシンへログインし、telnetコマンドを実行してネットワークの状態を確認します。以下のtelnetコマンドを実行し、サイト・ドメイン独立型構成の場合、サイト管理サーバとドメイン管理サーバが通信できるか確認してください。サイト・ドメイン兼用型構成の場合、サイト管理サーバと管理対象サーバノードとが通信できるか確認してください。

実行例

```
#telnet “通信相手のドメイン管理サーバのIPアドレス” 23456  
#telnet “通信相手のドメイン管理サーバのIPアドレス” 23457  
#telnet “通信相手の管理対象サーバノードのIPアドレス” 23458
```

23456：サイト管理サーバがドメイン管理サーバと通信するためのデフォルトポート番号

23457：サイト管理サーバがドメイン管理サーバと通信するためのデフォルトポート番号

23458：サイト管理サーバが管理対象サーバノードと通信するためのデフォルトポート番号

正常通信時

```
Trying 192.168.1.161...  
Connected to 192.168.1.161.  
Escape character is '^]'.  
Connection closed by foreign host.
```

- 2) telnetコマンドで通信不可能な状態の場合

① ファイアウォールソフトウェアの設定確認

サイト管理サーバとドメイン管理サーバの間に設置されたファイアウォールソフトウェアが通信を遮断したかどうか確認します。以下にInterstage Security Directorを利用した場合の確認方法を示します。

```
# /opt/FSUNfwip/bin/prtfilllog -A
```

このとき、以下に示すようにアラート情報を出力される場合、Security Directorによって通信が遮断されていることとなります。

```
# /opt/FSUNfwip/bin/prtfilllog -A
**** alert ****
ALERT 2005/01/16 11:34:11 PORTSCAN TCP [2] 192.168.0.101 ->
192.168.2.160
[32911-33979] -> [23458-23458] [23458]
ALERT 2005/01/16 17:48:56 PORTSCAN TCP [0] 192.168.1.161 ->
192.168.0.100
[32778-32794] -> [2425-9294] [9294 6963 2425]
```

上記の例では、Interstage Security Directorに設定されている値（通信許可）よりも多くの通信が行われた場合、実行され指定されたIPアドレスのマシンの通信が自動的にInterstage Security Directorのブラックリストに掲載され、遮断されます（例では192.168.0.101 と192.168.2.160、192.168.1.161と192.168.0.100）。

サイト・ドメイン独立型構成でブラックリストに掲載された場合、サイト管理サーバとドメイン管理サーバ間の通信で利用されるポート番号23456（RDSの初期設定ポート）のアラートだけをブラックリストから退避し、サイト管理サーバとドメイン管理サーバをブラックリスト対象外になるようにInterstage Security Directorの設定を変更し、検出されたアラートを無効にしてください。

サイト・ドメイン兼用型構成の場合、ドメイン管理サーバと管理対象サーバがブラックリスト対象外になるようにInterstage Security Directorの設定を変更し、検出されたアラートを無効にしてください。

Interstage Security Director V6.0L10をお使いの方は、「Interstage Security Directorファイアウォール機能テクニカルガイド」の「第5章FAQ 5.3運用中のトラブル 5.3.1アラートメッセージの抑止方法」をご覧ください。また、Interstage Security Director以外のファイアウォールソフトウェアをご利用の方は、そのファイアウォールソフトウェアの運用マニュアルをご覧ください。

上記以外の問題の場合、ネットワーク環境に異常がある可能性があります。LANケーブル抜けやドメイン管理サーバと管理対象サーバノードのIPアドレスが正しく設定されているか確認してください。正しく設定されている場合はネットワーク管理者へ問い合わせてください。

3) telnetコマンドで通信可能な状態の場合

① 管理対象サーバノードのホスト名設定の確認

状態がunknownとなっている管理対象サーバノードのhostsファイルから、その管理対象サーバノード自身のホスト名を確認します。管理対象サーバノードのIPアドレスが192.168.0.101の場合、下記のように確認します。

管理対象サーバノードがLinux または Solarisの場合：

```
# grep 192.168.0.101 /etc/hosts
192.168.0.101 server1
```

管理対象サーバノードがWindowsの場合：

```
C:\> find "192.168.0.101" "%SystemRoot%\system32\drivers\etc\hosts"

----- C:\WINNT\SYSTEM32\DRIVERS\ETC\HOSTS
192.168.0.101 server1
```

同じIPアドレスが複数行存在する場合、先に表示される行が有効となります。

② 登録状況の確認

GUIクライアント画面で、管理対象サーバノードの名前が、上記hostsファイルの名前と一致しているかどうか確認します。

一致していない場合、hostsファイルをGUIクライアント画面に表示されている名前に合わせて編集し、管理対象サーバノードを再起動してください。そして、GUIクライアントから『最新の情報に更新』を実行してください。

また、下記メッセージがGUIクライアントにイベント表示された場合、ホスト名が「xxx」から「yyy」に変更されたことを表しますので、hostsファイルを編集して元の「xxx」に戻してください。

```
hostname of servernode(192.168.0.101) has been changed from "xxx" to "yyy"
```

4) ServerViewの確認

管理対象サーバノードでServerViewが動作しているかを確認してください。

管理対象サーバノードがLinuxの場合：

下記のコマンドで、ServerViewのデーモンが動作しているか、確認してください。

コマンドが存在しない場合は、ServerViewはインストールされていないので、インストールしてください。

```
# /etc/init.d/srvmagt status
```

管理対象サーバノードがWindowsの場合：

コントロールパネル→[管理ツール]→[サービス]で、“Fujitsu ServerView Services”サービスの状態が開始になっているか、確認してください。

1.2.9 サーバ指定登録において[登録]ボタンをクリックした後、30分以上経過してもサーバの状態が“normal”にならない。

現象

物理リソース管理画面でのサーバ登録において[登録]ボタンをクリックした後、30分以上経過してもサーバの状態が“normal”にならない。さらに登録した管理対象サーバノードに対して、ネットワーク上での応答がない。

ネットワーク上での応答はドメイン管理サーバ上から以下のように確認できます。

```
$ /bin/ping <unknownとなっているサーバノードの管理IPアドレス>
```

例) ネットワーク上の応答がない場合

```
$ping 192.168.1.102
PING 192.168.1.102 (192.168.1.102) 56(84) bytes of data.
From 192.168.1.12 icmp_seq=0 Destination Host Unreachable
From 192.168.1.12 icmp_seq=1 Destination Host Unreachable
:
:
```

```
CLIENT MAC ADDR: 00 30 05 46 74 3E GUID: 00000000 0000 0000 0000 00300546743E
CLIENT IP: 192.168.0.234 MASK: 255.255.255.0 DHCP IP: 192.168.0.232
```

対処

サーバ指定登録時に、リソースコーディネータに登録済みの管理対象サーバノードに搭載されているNetwork Interface Card のMACアドレスを指定した可能性があります。

以下の確認と対処を実施してください。

【確認方法】

論理リソース管理画面からunknownとなっている管理対象サーバノードのプロパティを表示し、表示されているMACアドレスに加え、リソースコーディネータに登録されているすべての管理対象サーバノードに搭載されているNetwork Interface CardのMACアドレスを確認してください。

- 1) Linux上でのMACアドレスは以下のように確認できます。

```
$ /sbin/ifconfig -a
eth0      Link encap:Ethernet  HWaddr 00:90:27:9B:D6:CD
          inet addr:192.168.246.94  Bcast:192.168.246.255  Mask:255.255.255.0
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:280053 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:215643 errors:0 dropped:0 overruns:1 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:34620896 (33.0 Mb)  TX bytes:53015659 (50.5 Mb)
          Interrupt:10 Base address:0xa040 Memory:80200000-80200038
          :
```

Hwaddr 以降の文字列がMACアドレスになります。
上記例では 00:90:27:9B:D6:CD です。

- 2) Windows Server 2003 Standard Edition、Windows Server 2003 Enterprise Edition では以下のように確認できます。無効となっているネットワークカードが存在する場合、は有効にしてください。

[スタート]-[ファイル名を指定して実行]にて、cmd を入力し、[OK]ボタンを押下して、コマンドプロンプトを実行します。

コマンドプロンプトにて以下のコマンドを実行してください。

```
> ipconfig /all
Ethernet adapter RCnrNetwork1
    Connection-specific DNS Suffix  .:
    Description . . . . . :Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet
    Physical Address. . . . . :00-0B-5D-2E-85-84
    Dhcp Enabled. . . . . :No
    IP Address. . . . . :192.168.246.90
    Subnet Mask. . . . . :255.255.255.0
    Default Gateway. . . . . :192.168.246.1
    :
    :
```

Physical Address 以降の文字列がMACアドレスになります。
上記例では 00-0B-5D-2E-85-84 です。

【対処方法】

論理リソース管理画面から、unknownとなっている管理対象サーバノードを削除します。ただし、削除するとMACアドレスが重複している管理対象サーバノードがシャットダウンされるため、手動でシャットダウンされた管理対象サーバノードの電源を再投入してください。

1.2.10 管理対象サーバノードの登録時、イベントログにエラーメッセージが表示される。

現象

管理対象サーバノードを登録しようとしたとき、イベントログに下記内容のエラーメッセージが出力される。

```
FJSVrcx:INFO:21112:server1:server pool management OS startup succeeded
FJSVrcx:ERROR:61120:server1:server registration failed.
FJSVrcx:ERROR:67217:rcxserver:specified numbers of node was not created (0/1)
```

これらのメッセージが繰り返し出力される場合もある。

対処

下記の原因が考えられます。

- 1) サイト管理サーバと管理対象サーバノードの管理LANの設定が正しくない。
 - 2) サーバプール管理OSのネットワークの設定が正しくない。
 - 3) 管理対象サーバノードで起動したサーバプール管理OSが異常停止した。
 - 4) 管理LANのネットワーク帯域が確保できない。
 - 5) ネットワーク機器（LANのスイッチングハブなど）の設定が正しくない。
- 2)と3)はLinuxの場合、確認

他の管理対象サーバノードについてマスタイメージの作成やマスタイメージの配付が行なわれている場合には、特に4)、5)を確認してください。ネットワーク機器のデュプレックスモード設定について、全二重/半二重が機器間で合っているかどうかを確認してください。

メッセージが繰り返し出力されるのは登録処理がリトライされているためです。このリトライ処理は一定時間で中断されます。中断された場合には、原因を取り除いた後、再度登録処理を実施してください。

登録処理が成功した場合には、下記のメッセージがイベントログに表示されます。

```
FJSVrcx:INFO:21112:server1:server pool management OS startup succeeded
FJSVrcx:INFO:21111:server1:server registration succeeded.
```

“server registration succeeded”が表示されたら処理は正常完了です。

1.2.11 管理対象サーバノードの登録に失敗したが、紫色のアイコンが残る。

現象

管理対象サーバノードの登録に失敗したが、物理リソース画面に紫色のアイコンが残る。しかし、論理リソース画面のサーバ基本ドメイン上に対象のサーバノードが表示されない。サーバノードのプロパティの“監視状態”は“未登録”。またアイコンを選択し、削除を実施しても、反応が無く削除出来ない。

対処

下記の対処を実施後、画面から管理対象サーバノードが削除された事を確認し、再度、サーバ登録を実施して下さい。

- 1) 管理対象サーバノードの登録失敗時に正常にロールバックがされていないので、サイト管理

サーバにスーパーユーザでログインし、下記のコマンドを実行して管理対象サーバノードを削除してください。

コマンドを実行すると途中で続行を確認するメッセージが表示されますので、コマンドの内容に問題が無く続行する場合は、“y”を入力し、中断する場合は“n”を入力して下さい。

【Linux/Solarisの場合】

```
# /opt/FJSVssmgr/bin/sanadmsh deldev -host ip:<管理対象サーバノードのIPアドレス>
```

【Windowsの場合】

```
サイトマネージャインストールディレクトリ¥Site Manager¥opt¥FJSVssmgr¥bin¥sanadm  
¥ deldev -host ip:< 管理対象サーバノードの I P アドレス>
```

<実行例（対象サーバノードのIPアドレスが“10.10.10.10”の場合）>

```
# /opt/FJSVssmgr/bin/sanadmsh deldev -host ip:10.10.10.10  
Delete this device with NOT DELETE AccessPath mode.  
Are you sure to continue? (y or n) ==> y  
swsag0001 : Command terminated normally.
```

1.2.12 管理対象サーバノードの登録時、「FJSVrcx:ERROR:swsag0018」メッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

現象

管理対象サーバノードの登録を行った後、以下のメッセージが出力され、長時間経過しても登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

```
FJSVrcx:ERROR:61120:server_name:server registration failed.  
FJSVrcx:ERROR:swsag0018:rcxserver:The selected IP device cannot be found.
```

対処

サーバプール管理OSの構築以前に、Resource Coordinatorで管理対象サーバノードとして運用されていたサーバを構築サーバとして使用したことにより、構築されたサーバプール管理OSに構築サーバ固有の情報が含まれたことが原因で発生している可能性があります。

ドメイン管理サーバで以下のコマンドを実行し、サーバプール管理OSに構築サーバ固有の情報が含まれているか確認してください。

```
#/opt/FJSVrcxdm/jre/bin/keytool -list -keystore  
/diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/opt/FJSVssagt/certificate/agent_truststore -  
storepass chinook
```

表示されたエントリが0以外の場合、本原因と判断できます。以下の手順でサーバプール管理OSを再作成してください。

- 1) ドメイン管理サーバでrcxpoolosing deleteを実行します。
/opt/FJSVrcxdm/sbin/rcxpoolosing delete
- 2) 「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.2 構築サーバへのソフトウェアのインストール」から「4.3.3 OS イメージのドメイン管理サーバへの転送」までの手順を実施します。

1.2.13 管理対象サーバノードのシステムログにNFSのエラーを示すメッセージが出力され、登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。

現象

管理対象サーバノードの登録を行った後、長時間経過しても登録した管理対象サーバノードの状態が“normal”にならない。登録した管理対象サーバノードのコンソールにはLinuxのログインプロンプトが出力され、サーバプール管理OSが起動した状態となっている。登録した管理対象サーバノードのシステムログに“Stale NFS file handle”のメッセージが出力されている。

対処

ドメイン管理サーバと管理対象サーバノードの間でNFSの共有情報に不整合が発生している可能性があります。

以下の手順でNFSの共有情報を更新してください。

- 1) サーバプール管理OSで起動されているすべての管理対象サーバノードを停止します。
- 2) ドメイン管理サーバでNFSサーバを再起動します。

```
# /etc/init.d/nfs restart
```

- 3) 1)で停止した管理対象サーバノードを起動します。

1.2.14 管理対象サーバノードの登録後に、クライアントのイベントログに「Authentication Failure Trap」が繰り返し出力される。

現象

管理対象サーバノードの登録後、リソースコーディネータクライアントのイベントログに、装置名が「登録した管理対象サーバノード」である「イベント情報」「Authentication Failure Trap」が繰り返し出力される。

対処

サーバプール管理OSのSNMPコミュニティの設定を確認してください。

ドメイン管理サーバで以下のファイルを確認します。

・ /diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/snmp/snmpd.confファイル

次の行が定義されているか確認します。

SNMPコミュニティ名として“public”以外を使用する場合にも下記“com2sec svSec localhost public”の行は必要となります。

```
-----  
com2sec svSec localhost public
```

```
com2sec svSec default public
```

```
...
```

```
trapsink 127.0.0.1 public  
-----
```

・ /diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/srvmagt/VersionView.iniファイル[Configuration]セクションに次の行が定義されているか確認します。

```
-----  
[Configuration]
```

```
SnmpCommunity = public  
-----
```

- /diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/srvmagt/Status_MIB.iniファイル該当ファイルが存在する場合、[Configuration]セクションに次の行が定義されているか確認します。
存在しない場合、確認は不要です。

```
-----  
[Configuration]  
SnmpCommunity = public  
-----
```

- /diskless/i386/RHEL3/default/root/var/opt/FJSVhrm/config/common.iniファイル該当ファイルが存在する場合、[SNMP]セクションに次の行が定義されているか確認します。
存在しない場合、確認は不要です。

```
-----  
[SNMP]  
SV_COMMUNITY =public  
MB_COMMUNITY =public  
-----
```

上記が定義されていない場合、以下の手順で定義を修正してください。

- 1) サーバプール管理OSで起動されているすべての管理対象サーバノードを停止します。
- 2) ドメイン管理サーバ上で各ファイルを編集し、上記定義を設定します。

- /diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/snmp/snmpd.conf
- /diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/srvmagt/VersionView.ini
 /diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/master/etc/srvmagt/VersionView.ini
 /diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/<IPアドレス>/etc/srvmagt/VersionView.ini

以下のファイルは存在する場合だけ、編集します。

- /diskless/i386/RHEL3/default/root/etc/srvmagt/Status_MIB.ini
 /diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/master/etc/srvmagt/Status_MIB.ini
 /diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/<IPアドレス>/etc/srvmagt/Status_MIB.ini
- /diskless/i386/RHEL3/default/root/var/opt/FJSVhrm/config/common.ini
 /diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/master/var/opt/FJSVhrm/config/common.ini
 /diskless/i386/RHEL3/default/snapshot/<IPアドレス>/var/opt/FJSVhrm/config/common.ini

なお、<IPアドレス>が複数個存在する場合には、各々の対象ファイル全てを編集します。

- 3) 1)で停止した管理対象サーバノードを起動します。

1.2.15 管理対象サーバノードの登録に失敗する。

「第3章 増設時のトラブル」 「3.1 管理対象サーバノードの登録に関するトラブル」 「3.1.1 管理対象サーバノードの登録に失敗する」を参照してください。

1.2.16 サーバ保守やサーバ追加などのためにサーバブレードの抜き差しをした後、同一筐体内のサーバブレードのサーバプロビジョニングを利用しないサーバノード登録が出来なくなる。

現象

マネジメントブレードファームウェア(以下、F/Wと表記)の版数が v1.69 より古い版数の場合、サーバブレードの抜き差しを行った後にマネジメントブレードのIPアドレスが "0.0.0.0" と表示される場合があります。

このような場合に管理対象のサーバブレードをサーバ登録しようとする、以下のメッセージを出力してサーバ登録に失敗します。

```
65605
管理対象サーバノードを登録できませんでした。
詳細情報
"FJSVrcx:ERROR:67231:rcxserver:failed to get the information from the managed server
node"
```

【確認方法】

マネジメントブレードにLANインターフェース経由のTELNETが可能な環境であれば、マネジメントブレードの CLI (コマンドラインインターフェース) から確認が可能です。

- 1) 管理LANに接続された任意のコンピュータ上から、以下のコマンドを実行します。

```
telnet <マネジメントブレードのIPアドレス> 3172
```

- 2) ユーザ名とパスワードを入力し、マネジメントブレードにログインします。
- 3) ログインできたら以下の順にメニューを選択してください。

```
(1) Management Agent
```

```
(1) Management Agent Information
```

- 4) "1. Set Management Agent IP Address"の欄に表示されたIPアドレスが"0.0.0.0"であれば、本現象に該当しますので、以下の対処を行ってください。

その他詳細な接続方法は、ブレードサーバ添付マニュアルの「マネジメントブレード ハードウェアガイド」を参照してください。

対処

1. マネジメントブレード F/W を v1.70 以降にアップデートしてください。
2. 上記の現象が発生した場合、暫定対処としてマネジメントブレードの再起動を行うことにより、現象が回避される場合がありますが、サーバブレードの抜き差しを契機として再発する可能性があります。

ファームウェアは PCサーバ PRIMERGYのホームページ からダウンロードすることができます。

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/> (2007年6月現在)

1.3 ストレージ装置の登録に関するトラブル

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
1.3.1	物理リソース管理画面でストレージ装置の検索に失敗する。	共通	-	-
1.3.2	物理リソース管理画面で仮想化スイッチの検索に失敗する。	共通	-	-
1.3.3	物理リソース管理画面で仮想化スイッチの登録に失敗する。	共通	-	-

1.3.1 物理リソース管理画面でストレージ装置の検索に失敗する。

現象

物理リソース管理画面でストレージ装置を検索しようとする、下記のエラーメッセージがダイアログに表示され、検索に失敗する。

```
swsag0018  
指定のアドレスに新規装置を検出する事は出来ませんでした。
```

対処

以下の確認と対処を実施してください。

- 1) アドレスの指定
指定したアドレス (IPアドレスまたはhostsやDNSに登録している名前) が間違っていないか確認し、正しいアドレスを指定して再度検索を実施してください。
- 2) SNMPコミュニティの設定
リソースコーディネータは、ストレージ装置との通信にSNMP通信も利用しています。SNMP通信に必要なコミュニティ名について、標準では、情報読み取り用に“public”を、情報設定用に“private”を使用しています。リソースコーディネータ側の設定と、ストレージ装置側の設定が合っているか確認し、正しいコミュニティ設定で再度検索を実施してください。ストレージ装置用のコミュニティ設定については下記のマニュアルを参照してください。

```
「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編」  
「付録D.2 sanma.confパラメータ説明」  
SNMP_COMMUNITY_NAME_FOR_IP  
SNMP_COMMUNITY_NAME_FOR_AUTODISCOVER
```

ストレージ装置側のコミュニティ設定については装置添付マニュアルを参照してください。

1.3.2 物理リソース管理画面で仮想化スイッチの検索に失敗する。

現象

物理リソース管理画面で仮想化スイッチを検索しようとする、下記のエラーメッセージダイアログ

が表示され、検索に失敗する。

swsag0018

指定のアドレスに新規装置を検出する事は出来ませんでした。

対処

以下の確認と対処を実施してください。

- 1) アドレスの指定を確認する。
Brocade SMI Agentがインストールされているサーバのアドレス(IPアドレス)や、Brocade SMI Agentに対する情報(ポート番号やパスワード)が、間違っていないか確認し、正しい情報を指定した後に、再度検索を実施してください。
- 2) Brocade SMI Agentの動作を確認する。
Brocade SMI AgentをインストールしたマシンでBrocade SMI Agentが動作していることを、“psコマンド”等で確認し、停止している場合は、Brocade SMI Agentを起動した後に、再度検索を実施してください。
- 3) Brocade SMI Agentの定義ファイル内容を確認する。
Brocade SMI Agentの定義ファイルに記述した情報に誤りがないか確認し、正しい情報を記述した後に、Brocade SMI Agentを起動し、再度検索を実施してください。

仮想化スイッチの検索方法の詳細については、下記のマニュアルを参照してください。

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 仮想ストレージ管理編」

「4.3 仮想化スイッチの登録」

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編」

「4.2 ファイバチャネルスイッチ」

「5.2 ストレージリソースの作成・登録」

1.3.3 物理リソース管理画面で仮想化スイッチの登録に失敗する。

現象

物理リソース管理画面で仮想化スイッチを検索・登録しようとする、下記のエラーメッセージダイアログが表示され、登録に失敗する。

swsag0340

新しい装置を検出しましたが、装置自動追加に失敗しました。

対処

仮想化スイッチの場合、物理リソース管理画面の検索処理内で登録処理が行われます。現象に示したメッセージダイアログが表示された場合は、検索処理は正常終了しましたが、登録処理に失敗したことを表しています。

以下の確認と対処を実施してください。

- 1) /etc/hosts ファイル(Windowsの場合は %SystemRoot%\system32\drivers\etc\hosts)の内容を確認する。
運用管理サーバ内の /etc/hosts ファイルに、仮想化スイッチの情報が正しく記述されているか確認し、仮想化スイッチの情報を記述してから、再度検索を実施してください。
- 2) 仮想化スイッチ内の情報を確認する。
仮想化スイッチ内に、運用管理サーバの情報が正しく設定されているか確認し、運用管理サーバの情報を設定してから、再度検索を実施してください。
仮想化スイッチに設定した情報を有効にするには、仮想化スイッチのリポートが必要です。

運用管理サーバの設定および、仮想化スイッチ設定方法については、下記のマニュアルを参照してください。

【Linux/Solarisの場合】

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 仮想ストレージ管理編」

「3.1 [Solaris OS版/Linux版]運用管理サーバの設定」

「3.3 仮想化スイッチの設定」

【Windowsの場合】

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 仮想ストレージ管理編」

「3.2 [Windows版]運用管理サーバの設定」

「3.3 仮想化スイッチの設定」

「ETERNUS VS900 モデル200 システム構築手順書」

1.4 統合インストーラに関するトラブル

対象製品 : Solaris

統合インストーラに関するトラブルの対処方法については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 統合インストーラ編」の「付録B トラブルシューティング」を参照してください。

1.5 リモートコンソールマネージャに関するトラブル

対象製品 : Solaris

リモートコンソールマネージャに関するトラブルの対処方法については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド リモートコンソールマネージャ編」の「付録D トラブルシューティング」を参照してください。

1.6 仮想ボリューム管理機能に関するトラブル

対象製品 : Solaris

仮想ボリューム管理機能に関するトラブルの対処方法については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 仮想ボリューム管理編」の「付録F トラブルシューティング」を参照してください。

仮想ボリューム管理機能のGUI(Web-Based Admin View)に関するトラブルの対処方法については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド Web-Based Admin View編」の「付録B トラブルシューティング」を参照してください。

第2章 運用時のトラブル

本章では、リソースコーディネータの運用時に発生するトラブルの対処方法について説明します。

2.1 基本的な設定に関するトラブル

リソースコーディネータを使用するうえで、基本的な設定が行われていないことが原因で発生するトラブルについて説明します。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.1.1	管理対象サーバノードの状態が”warning”になったまま、”normal”にならない。	L/W	L/W	L
2.1.2	ドメインマネージャの起動コマンド実行時にエラーが発生する。	-	S/L	-

2.1.1 管理対象サーバノードの状態が”warning”になったまま、”normal”にならない。

現象

管理対象サーバノードの状態が”warning”になったまま、”normal”にならない。

対処

管理対象サーバノードがLinuxで、Systemwalker Centric Managerの性能監視を使用している場合は、Systemwalker Centric ManagerのSNMP設定を確認してください。

```
/opt/FJSVspmex/etc/exasnmppd.conf
```

```
[community]
name1=public

[public]
access=read-write
```

上記は、publicにread権とwrite権が与えられている例です。Systemwalker Centric Managerのデフォルトの設定では、すべての行が’ ; ’ でコメントアウトされており、publicにread権が与えられている状態となっています。

リソースコーディネータでのSNMPコミュニティ名(「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「3.3.2 管理LANの設計」)とSystemwalker Centric ManagerのSNMPコミュニティ名が異なる場合は、下記のどちらかの対処を実施してください。

- 1) Systemwalker Centric ManagerのSNMPコミュニティ名をリソースコーディネータにあわせる。
/opt/FJSVspmex/etc/exasnmppd.conf で、リソースコーディネータのSNMPコミュニティ名を許可し、Systemwalker Centric Managerの性能監視のSNMPコミュニティ名を変更します。
- 2) Systemwalker Centric ManagerのSNMPコミュニティ名も許可するように、管理対象サーバノードのSNMP設定を変更する。
/etc/snmp/snmpd.confで、Systemwalker Centric Managerの性能監視のSNMPコミュニティ名にもread権を設定します。

2.1.2 ドメインマネージャの起動コマンド実行時にエラーが発生する。

現象

ドメインマネージャの起動コマンド実行時に、以下のエラーが発生する場合がある。

```
# /opt/FJSVrcxdm/sbin/rcxdmnet1 start
FJSVrcx:ERROR:61104:rcxdmnet1:failed to start domain manager. code=1
FJSVrcx:ERROR:69304:An internal error occurred in ServerRM daemon.
```

対処

/etc/servicesファイル内のポート設定に誤りがある可能性があります。

上記のエラーメッセージが表示された場合、/etc/servicesファイル内のポート設定が正しく行われているか確認し、もう一度上記コマンドを実行してください。ポート設定が正しく行われていた場合、/var/opt/FJSVrcxdm/log/serverrm/errorFileファイルの内容を参照し対処してください。もし、ファイルが無いか対処不明の場合、調査資料を採取し調査員に連絡してください。

2.2 運用全般に関するトラブル

運用全般に関するトラブルシューティングについて説明します。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.2.1	サイトマネージャまたはドメインマネージャを高可用性運用(クラスタ運用)している状態で サーバの起動/停止などの操作を行っても、論理リソース管理画面のサーバの状態が変わらない。	S/L	S/L	-
2.2.2	サーバグループに関する処理を行った場合に「FJSVrex:ERROR:67210」メッセージが出力される。	共通	-	-
2.2.3	管理対象サーバノードの状態が warning や error になる。	共通	共通	共通
2.2.4	ストレージ装置の状態が warning や error になる。	共通	-	-
2.2.5	サーバグループ間の接続作成を行った場合に、「FJSVrex:ERROR:67167」メッセージが出力される。	L/W	-	-
2.2.6	管理対象サーバノードのエージェントが起動できない。	-	-	S/L
2.2.7	クライアントの画面に「ssmgr8013」メッセージが表示される。	共通	-	-

2.2.1 サイトマネージャまたはドメインマネージャを高可用性運用(クラスタ運用)している状態でサーバの起動/停止などの操作を行っても、論理リソース管理画面のサーバの状態が変わらない。

現象

サイトマネージャまたはドメインマネージャを高可用性運用(クラスタ運用)している状態で、サーバの起動/停止などの操作を行っても、論理リソース管理画面のサーバの状態が変わらない。
さらに、サイト管理サーバまたはドメイン管理サーバ上で、nwsnmp-trapdというプロセスが動作していない。プロセスは以下のように確認できます。

```
# /bin/ps -ef | grep nwsnmp-trapd
```

注意：サイト管理サーバとドメイン管理サーバを別サーバで運用している場合、それぞれのサーバに上記プロセスが存在します。 サイト管理サーバとドメイン管理サーバを兼用している場合、上記プロセスがサーバ上に1つ存在します。

対処

以下の操作を行った可能性があります。

- /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgrctl stop を実行してサイトマネージャを停止し、サイトマネージャのクラスタサービスを起動した。
- /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxdmctl stop を実行してドメインマネージャを停止し、ドメインマネージャのクラスタサービスを起動した。

以下の確認と対処を実施してください。

- 1) サイト管理サーバで以下のコマンドを実行し、サイトマネージャのnwsnmp-trapdのプロセスが起動しているかを確認します。

```
# /bin/ps -ef | grep /opt/FJSVssmgr/jre/bin/java | grep cruiser=daemon | grep -v grep <RETURN>
# /bin/ps -ef | grep /opt/FJSVswstt/bin/nwsnmp-trapd <RETURN>
```

- 2) ドメイン管理サーバで以下のコマンドを実行し、ドメインマネージャのnwsnmp-trapdのプロセスが起動しているかを確認します。

```
# /bin/ps -ef | egrep /opt/FJSVrcxdm/sys/rcxdstart | egrep java | egrep -v egrep | egrep "Ddaemon=ServerRM" | egrep -v rcxdmstart <RETURN>
# /bin/ps -ef | grep nwsnmp-trapd | egrep /opt/FJSVrcxdm | egrep java | egrep -v egrep | egrep "Ddaemon=RDS" | egrep -v rcxdmstart <RETURN>
```

- 3) 上記の確認の結果、nwsnmp-trapdのプロセスが動作していない場合、以下のコマンドを実行し、nwsnmp-trapdを起動してください。

```
# /opt/FJSVswstt/bin/mpnm-trapd start
```

2.2.2 サーバグループに関する処理を行った場合に「FJSVrcx:ERROR:67210」メッセージが出力される。

現象

管理対象サーバノードの追加など、サーバグループに関する処理を行おうとした場合、下記のメッセージが表示される。

```
FJSVrcx:ERROR:67210:command:obj:is busy
```

対処

他に操作対象のサーバグループに対する処理が行われています。該当するサーバグループに関する処理が完了した後、再度、操作を行ってください。

2.2.3 管理対象サーバノードの状態がwarningやerrorになる。

現象

管理対象サーバノードの装置状態がwarningやerrorになる。

対処

以下の原因が考えられます。

- 管理対象サーバノードからの非同期イベント
管理対象サーバノードにインストールされているリソースコーディネータエージェントは、障害を検知した場合に非同期イベントを通知します。サイトマネージャは、イベントを受信すると、事象に応じて装置状態を変更します。サーバノードの障害に関するイベントの場合に、warningやerrorになります。この情報はクライアントのイベントログに表示されますので、内容を確認してください。イベントログ表示については下記マニュアルを参照してください。
「Systemwalker Resource Coordinator イベント説明書」
「第2章 監視している装置から送られてくるイベント」

なお、障害を対処した後や一時的な障害の場合には、「最新の情報に更新」を実施すると状態

はnormalに戻ります。

- HBAポートがない、または、HBAポートの状態がunknown
「物理リソース管理画面」の管理対象サーバノードのアイコンをドリルダウンしたときに、サーバノードにHBAポートがない、または、HBAポートの表示が灰色の場合 (unknown) は、以下を確認してください。
 - ① HBAのドライバがOSに正しく導入されていない
Windows環境の場合はデバイスマネージャで確認することができます。
Linux環境またはSolaris OS環境の場合にはシステムログで確認することができます。
 - ② SNIA HBA APIライブラリがインストールされていない
使用している製品 (リソースコーディネータ) の「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「付録B SNIA HBA API ライブラリのインストール」
(Windows版は「付録A SNIA HBA API ライブラリのインストール」) を参照し、インストールと設定を確認してください。
 - ③ ファイバチャネルスイッチで異常が発生していた
ファイバチャネルスイッチで異常が発生していた場合に、HBAポートの表示が灰色になる場合があります。
ファイバチャネルスイッチの異常を解消後、対象サーバの再起動を実施し、HBAポートの状態を確認してください。
HBAポートの状態がunknownのままの場合には、調査資料を採取し、当社技術員に連絡してください。
調査資料の採取方法については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「H.1 調査資料の採取方法」(Windows版は「E.1 調査資料の採取方法」) を参照してください。
- HBAポートの状態がwarningまたはerror
「物理リソース管理画面」の管理対象サーバノードのアイコンをドリルダウンしたときに、サーバノードのHBAポートの表示が黄色 (warning) または赤色 (error) の場合は、以下を確認してください。
 - ① HBAポートが使用不可
「関係管理ウィンドウ」から、管理対象サーバノードのHBAポートのプロパティで、装置詳細を確認してください。装置詳細が“Operational”以外の場合はHBAポートが使用できないことを示しています。HBAポートが使用できない理由は、ハード異常の可能性があり、HBAのLED表示で確認することができます。詳細についてはHBAに添付されているマニュアルを参照してください。

代表的なものとして、以下があります。
 - ・ PRIMERGY BX600, BX660, BX620 S2でPG-FCD101をご使用の場合
「PRIMERGY BX600ハードウェアガイドシャーシ編」
 - ・ PG-FC105, PG-FC106をご使用の場合
「ファイバーチャネルカード (PG-FC105) 取扱説明書」
「ファイバーチャネルカード (PG-FC106) 取扱説明書」
 - ・ Emulex社 LP9000, LP9002L, LP9002S, LP9802, LP10000をご使用の場合
詳細はHBA販売元にご確認ください。
 - ・ GP7B8FC1, PW008FC2, PW008FC3をご使用の場合
「FUJITSU PCI Fibre Channel 2.2.1 説明書」
「FUJITSU PCI Fibre Channel 3.0 説明書」
- HBAポートがリンクダウンしている。
以下の原因でHBAポートがリンクダウンし、warning状態またはerror状態となります。
 - ① HBAポートからファイバチャネルケーブルが抜けている。
 - ② 接続先のファイバチャネルスイッチ側のポートからケーブルが抜けている。
 - ③ 接続先のファイバチャネルスイッチ側のポートに障害が発生している。
 - ④ 接続先のストレージ装置のポートに障害が発生している。

保守のために一時的にケーブルを抜いた場合でも同様にwarningまたはerrorとなります。

以上のとおり、ハード障害の原因もありますので、装置状態を確認し、各装置のサポート担当に連絡してください。

2.2.4 ストレージ装置の状態がwarningやerrorになる。

現象

ETERNUSシリーズディスクアレイ装置やSN200ファイバチャネルスイッチの装置状態が、warningやerrorになる。

対処

以下の原因が考えられます。

1) ストレージ装置からのSNMPTrap通知

ストレージ装置は自身で障害を検知した場合にSNMPTrapを通知します。リソースコーディネータサイトマネージャは、SNMPTrapを受信すると、事象に応じて装置状態を変更します。装置障害に関するSNMPTrapの場合に、warningやerrorになります。このSNMPTrapの情報はクライアントのイベントログに表示されますので、内容を確認してください。SNMPTrap受信によるイベントログ表示については、下記マニュアルを参照してください。

「Systemwalker Resource Coordinator イベント説明書」

「第2章 監視している装置から送られてくるイベント」

尚、障害を対処した後や、一時的な障害の場合には、「最新の情報に更新」を実施すると装置状態はnormalに戻ります。

2) ストレージ装置内の障害

SNMPTrap通知を含め、「最新の情報に更新」を実施しても装置状態がnormalに戻らない場合は、定常的な装置障害が発生しています。

主な障害の内容としては、ファイバチャネルポートや電源など、装置の構成部品の障害です。ポート障害については、「物理リソース管理画面」で各装置の「サイドビュー」表示から各ポートの状態を確認することができます。また、ETERNUSシリーズディスクアレイ装置については、ディスクドライブ障害によるRAID構成のデグレード状態なども検出し、「関係管理ウィンドウ」で構成部品の状態を確認することができます。

さらに詳細に確認するためには、「物理リソース管理画面」から各装置の「装置管理ソフトウェア」を呼び出してください。

「物理リソース管理画面」「関係管理ウィンドウ」については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編」を参照してください。

以上のとおり、ストレージ装置のwarningやerrorは主に装置本体のハード異常が主な原因です。状態を確認し、各装置のサポート担当に連絡してください。

2.2.5 サーバグループ間の接続作成を行った場合に、「FJSVrcx:ERROR:67167」メッセージが出力される。

現象

サーバグループ間の接続作成に失敗し、下記のエラーメッセージが出力される。

```
FJSVrcx:ERROR:67167:command:obj:contains Server node
```

対処

objに表示されたサーバグループに管理対象サーバノードが存在しているため、サーバグループ間接続ができません。

obj内の管理対象サーバノードを削除したのち、サーバグループ間の接続作成を再実行してください。

2.2.6 管理対象サーバノードのエージェントが起動できない。

現象

管理対象サーバノードのエージェントを起動すると以下のメッセージを出力して起動が失敗する。

```
FJSVrcx:ERROR:63102:rcxagtctl:already running
```

対処

以下の原因が考えられます。

- エージェントの停止処理が完了していない。
エージェントの停止処理で、何らかのトラブルが発生した場合には、エージェントが停止できず、プロセスが残ってしまう場合があります。

以下の確認と対処を行ってください。

- 1) 下記のコマンドを実行し、プロセスが残っていないか確認します。

```
ps -ef|grep defunct
```

プロセスが残っている場合には、以下のように出力されます。

```
root      7008      1  1 13:58 pts/0    00:02:24 [java <defunct>]
```

- 2) プロセスが残っている場合は、システムを再起動してください。

2.2.7 クライアントの画面に「ssmgr8013」メッセージが表示される。

現象

クライアントの画面に、以下のメッセージボックスが表示される。

```
ssmgr8013
```

クライアントからマネージャへの接続に失敗しました。
マネージャが正常に動作しているか確認してください。
マネージャのアドレスは xxxx です。

対処

以下の原因が考えられます。

- 1) 一時的にマネージャとの通信に失敗している。
OKボタンを押してメッセージダイアログを閉じ、運用を継続してください。
- 2) サイトマネージャが停止している。
以下を実行し、サイトマネージャが起動しているかどうかを確認します。

Linux/Solarisの場合

```
# /bin/ps -ef | grep /opt/FJSVssmgr/jre/bin/java | grep cruiser=daemon | grep -v  
grep <RETURN>
```

Windowsの場合

[スタート]-[コントロールパネル(C)]の、「管理ツール」から「サービス」を開き、サービス画面で、Systemwalker Resource Coordinator Site Managerのサービスの状態を確認してください。

プロセスが出力されない場合、サイトマネージャが起動していません。
サイトマネージャ上で以下のログを確認してください。
/var/opt/FJSVrcxmr/log/systemrm/rcxmr.log
上記のログが、以下のキーワードで終了しているかを確認してください。

```
[XXXX.XX.XX XX:XX:XX] Exit : code=255
```

※[XXXX.XX.XX XX:XX:XX]には、日時が入ります。(例 2005.8.20 21:11:03)
キーワードが存在する場合、サイトマネージャのJavaVMが異常終了した可能性があります。

以下のいずれかの方法でサイトマネージャを起動し、サイトマネージャ起動後にクライアントから接続してください。

【クラスタ環境の場合】

サイトマネージャのクラスタアプリケーションを起動してください。

【クラスタ環境ではない場合】

以下のコマンドを実行してサイトマネージャを起動してください。

Linux/Solarisの場合

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgrctl start
```

Windowsの場合

```
>インストールフォルダ¥Site Manager¥opt¥FJSVrcxmr¥sbin¥rcxmgrctl start
```

2.3 管理対象サーバノードの追加に関するトラブル

管理対象サーバノードの追加時に発生するトラブルの対処方法について説明します。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.3.1	管理対象サーバノードを追加した後、業務アプリケーションで通信エラーが発生する。	-	-	L/W
2.3.2	管理対象サーバノードの追加が失敗する。	L/W	L/W	L/W
2.3.3	sscsetmpコマンドを実行後、キャンセルする方法がわからない。	-	-	L/W
2.3.4	サーバグループへの管理対象ノードの追加時に「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress ??%。」のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗しない。	L/W	L/W	L/W
2.3.5	サーバグループへの管理対象サーバノードの追加時に「FJSVrcx:ERROR:67198」メッセージが出力される。	L/W	L/W	L/W
2.3.6	Windowsの管理対象サーバノードをサーバグループに追加した後、管理対象サーバノードに「ネットワーク上の別システムと競合するIPアドレスがあります」というダイアログが表示される。	L	-	-
2.3.7	EMC Symmetrixシリーズに接続されている管理対象サーバノードのサーバグループへの追加がエラー終了する。	L	L	L
2.3.8	サーバ追加(WindowsOS)を実施すると、以下のエラーメッセージを出力して処理に失敗することがあります。	L/W	L/W	W
2.3.9	サーバグループへの管理対象サーバノードの追加時に「FJSVrcx:ERROR:68295」メッセージが出力される。	L	L	-

2.3.1 管理対象サーバノードを追加した後、業務アプリケーションで通信エラーが発生する。

現象

管理対象サーバノードをサーバグループへ追加した後、業務アプリケーションを動作させると通信エラーが発生する。

対処

以下の原因が考えられます。

- 業務LANのIPアドレスの設定に誤りがある。
- デフォルトゲートウェイやDNSの設定が行われていない。

以下の確認と対処を実施してください。

- 1) 業務アプリケーションがインストールされている管理対象サーバノードへログインし、pingコマンドを実行してネットワークの状態を確認します。

例)

```
# ping “通信相手ホストのIPアドレス”
```

ここで、pingコマンドの応答状態（通信可能かどうか）を確認します。

2) pingコマンドで通信可能な状態の場合

IPレベルでの通信は可能です。

業務アプリケーションで使用するポートの設定(Linuxの場合、/etc/servicesファイル)および、ホスト定義(Linuxの場合、/etc/hostsファイル)、DNS定義(Linuxの場合、/etc/nsswitch.conf、/etc/resolv.confファイル)が正しく設定されているかを確認してください。また、業務アプリケーションの定義において、ホスト名やIPアドレスの設定がある場合には、正しい値が設定されているかを確認してください。

3) pingコマンドで通信不可能な状態の場合

① インタフェースの状態の確認

業務アプリケーションが動作する管理対象サーバノードへログインし、ネットワークインタフェースの状態を確認します。

```
# ifconfig -a
```

このとき、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「3.2.2 業務LAN の設計【Linux/Windows】」で設計した業務LANのIPアドレス範囲のIPアドレスが、ネットワークインタフェースに正しく設定されているかを確認します。

設計時の値と異なっている場合は、「5.2.14 サーバグループ間の接続【Linux/Windows】」を参照し、正しい業務LANのIPアドレス範囲を指定して再定義を行ってください。なお、業務LANのネットワークアドレスは、管理LANのネットワークアドレスと異なる値でなければいけません。

② ルーティング情報の確認

業務アプリケーションの通信相手ホストが同一ネットワークに存在しない場合には、ルーティングの設定(デフォルトゲートウェイの設定)を行う必要があります。

routeコマンドを使用して、デフォルトゲートウェイが設定されているかを確認します。

例)

```
# route -n
Kernel IP routing table
Destination      Gateway          Genmask         Flags Metric Ref    Use Iface
192.168.0.0      0.0.0.0         255.255.255.0  U        0      0      0 eth0
127.0.0.0        0.0.0.0         255.0.0.0      U        0      0      0 lo
0.0.0.0         192.168.1.1    0.0.0.0        UG       0      0      0 eth0
```

↑デフォルトゲートウェイの設定

ルーティングの設定(デフォルトゲートウェイの設定)が行われていない場合は、「5.2.15.1 管理対象サーバノードの追加(マスタイメージがない場合)【Linux/Windows】」を参照し、デフォルトゲートウェイの設定を行ってください。

2.3.2 管理対象サーバノードの追加が失敗する。

現象

管理対象サーバノードの追加の際に、下記のエラーメッセージがダイアログ表示され、処理に失敗する。

65607:サーバグループへの管理対象サーバノードの追加を開始できませんでした。

対処

以下の原因が考えられます。

- 装置未登録1

エラーメッセージのダイアログの中で、FJSVrcx:ERROR:62042:rcxserverが表示されている場合には、ファイバチャネルスイッチが登録されていない可能性があります。物理リソース

管理画面で、管理対象サーバノードに接続されているファイバチャネルスイッチが登録されているか確認してください。登録されていない場合は、ファイバチャネルスイッチについて「装置の検索」を実施し、そして「装置の追加」を実施してください。

- 装置未登録2

エラーメッセージのダイアログの中で、FJSVrcx:ERROR:swsag0277:rcxserverが表示されている場合は、ファイバチャネルスイッチの監視状態が“未登録”になっています。物理リソース管理画面で、管理対象サーバノードに接続されているファイバチャネルスイッチのプロパティ画面を確認してください。監視状態が“未登録”の場合は、物理リソース管理画面で「装置の追加」を実施してください。

- 装置ログイン中

エラーメッセージのダイアログの中で、FJSVrcx:ERROR:swsag0189:rcxserverが表示されている場合には、リソースコーディネータ以外から、ファイバチャネルスイッチがtelnetログインされている可能性があります。ファイバチャネルスイッチにログインできるユーザ数には制限があります。管理対象サーバノードに接続されているすべてのファイバチャネルスイッチからログアウトしてください。

- SNMPTrap受信デーモン停止 (Linuxの場合)

下記のエラーメッセージがイベントログに表示されている場合には、SNMPTrap受信デーモンが動作していない可能性があります。

```
FJSVrcx:ERROR:67219:rcxserver:server_name:  
timeout occurred while waiting for pool management OS boot
```

以下の確認と対処を実施してください。

- 1) 以下のコマンドを実行し、サイトマネージャのnwsnmp-trapdのプロセスが起動しているかを確認します。

```
# /bin/ps -ef | grep FJSVssmgr <RETURN>  
# /bin/ps -ef | grep nwsnmp-trapd <RETURN>
```

- 2) 以下のコマンドを実行し、ドメインマネージャのnwsnmp-trapdのプロセスが起動しているかを確認します。

```
# /bin/ps -ef | grep /opt/FJSVrcxdm/sys/rcxdmdstart<RETURN>  
# /bin/ps -ef | grep nwsnmp-trapd <RETURN>
```

- 3) 上記の確認の結果、nwsnmp-trapdのプロセスが動作していない場合、以下のコマンドを実行し、nwsnmp-trapdを起動してください。

```
# /opt/FJSVswstt/bin/mpnm-trapd start
```

- SNMPTrap受信サービス停止 (Windowsの場合)

下記のエラーメッセージがイベントログに表示されている場合には、SNMPTrap受信サービスが動作していない可能性があります。

```
FJSVrcx:ERROR:67219:rcxserver:server_name:  
timeout occurred while waiting for pool management OS boot
```

以下の確認と対処を実施してください。

- 1) 以下の通り、サイトマネージャのSNMPTrap受信サービスが起動しているかを確認します。

[スタート]-[コントロールパネル(C)] の、“管理ツール” から “サービス” を選択し、サービス画面で、Systemwalker MpWksttr のサービスの状態が、“開始” となっていることを確認してください。

- 2) 上記の確認の結果、SNMPTrap受信サービスが動作していない場合、以下の通り起動してください。

[スタート]-[コントロールパネル(C)] の、“管理ツール” から “サービス” を選択し、サービス画面で、Systemwalker MpWksttr のサービスを選択しサービスを開始します。

- ブート順序
下記のエラーメッセージがイベントログに表示されている場合には、管理対象サーバノードのブート順序の設定に誤りがある可能性があります。

```
FJSVrcx:ERROR:67219:rcxserver:server_name:  
timeout occurred while waiting for pool management OS boot
```

管理対象サーバノードのBIOSで、ネットワークインタフェースからのブートが最優先となっているかブート順序の設定を確認してください。ブート順序の設定については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド サーバ管理編」の「4.1 機種固有設定」を参照してください。各BIOSの設定の詳細情報については、各機種のマニュアルを参照してください。

ファイバチャネルスイッチを含むストレージ装置の登録については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編」の「5.2 ストレージリソースの作成・登録」を参照してください。

2.3.3 sscsetmpコマンドを実行後、キャンセルする方法がわからない。

現象

プロビジョニング用の管理対象サーバノードにエージェントをインストールし、SAN環境をマルチパスにするため、sscsetmpコマンドを実行すると、下記のメッセージが出て停止する。

```
FJSVssagt:INFO:51001 Multi path setting was started.  
The reboot will be started after multi path setting.  
Please wait...
```

手順ミスや設定ミスなどがあった場合にこのコマンドをキャンセルしたいが、方法がわからない。

対処

sscsetmpコマンドはCtrl-Cでキャンセルすることができます。また、このsscsetmpコマンドは、内部でエージェントを起動していますので、Ctrl-Cでsscsetmpコマンドをキャンセルしてから、下記コマンドでエージェントを終了させてください。

【Linuxの場合】

```
/opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl stop
```

【Windowsの場合】

```
(インストールディレクトリ)¥Agent¥sbin¥rcxagtctl stop
```

2.3.4 サーバグループへの管理対象ノードの追加時に

「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress ??%。」のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗しない。

2.3.4.1 マスタイメージ(Windows)の配付中に、長時間経過しても進捗がない場合

現象

サーバグループへの管理対象サーバノード(Windows)の追加において、GUIのイベントログに以下のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗が進まない。(以下の??%の部分は実際には71%~80%の値)

FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress ??%. <管理対象サーバノード名>

管理対象サーバノード側では、プロダクトキー入力待ちとなりマスタイメージ配付処理が終了しない。

対処

以下の可能性があります。

- サーバプロビジョニングを行うサーバノードにSystemwalker Resource Coordinator Agent 基盤モジュールをインストールする際にプロダクトキーの入力忘れや入力誤りがある。
- Systemwalker Resource Coordinator Agent 基盤モジュールインストール後に、イメージ操作モジュールをインストールしている。

上記に該当する場合は、以下の手順で対処を行ってください。

- 1) マスタイメージ配付先の管理対象サーバノードで、プロダクトキー入力画面でプロダクトキーを入力し直して、[次へ]ボタンを押します。
その後、GUIで管理対象サーバノードの状態が“normal/active”になることを確認してください。
- 2) マスタイメージ採取元の管理対象サーバノードで、Systemwalker Resource Coordinator Agent (基盤モジュール、イメージ操作モジュール)をアンインストールします。
ドメイン管理サーバがLinuxの場合、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「7.2 エージェントのアンインストール【Windows】」の手順を実施してください。
運用管理サーバがWindowsの場合、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「7.2 アンインストール」の手順を実施してください。
- 3) マスタイメージ採取元の管理対象サーバノードで、Systemwalker Resource Coordinator Agentをイメージ操作モジュール、基盤モジュールの順番にインストールします。
ドメイン管理サーバがLinuxの場合、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「6.2 インストールとセットアップ【Windows】」の手順を実施してください。運用管理サーバがWindowsの場合、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「第6章 エージェントのインストールとセットアップ」の手順を実施してください。
- 4) マスタイメージの更新を行います。
ドメイン管理サーバがLinuxの場合、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「7.2.2.1 マスタイメージの更新【Linux/Windows】」の手順を実施してください。運用管理サーバがWindowsの場合、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「7.2.1.1 マスタイメージの更新」の手順を実施してください。
- 5) マスタイメージの配付を行います。
ドメイン管理サーバがLinuxの場合、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の以下に該当する手順を実施してください。
 - 「7.2.2.3 マスタイメージの配付 (一括方式の場合)【Linux/Windows】」
 - 「7.2.2.4 マスタイメージの配付 (ローリング方式の場合)【Linux/Windows】」
 - 「7.2.2.5 マスタイメージの配付 (サーバ指定配付の場合)【Linux/Windows】」

運用管理サーバがWindowsの場合、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の以下に該当する手順を実施してください。

「7.2.1.3 マスタイメージの配付（一括方式の場合）」

「7.2.1.4 マスタイメージの配付（ローリング方式の場合）」

「7.2.1.5 マスタイメージの配付（サーバ指定配付の場合）」

2.3.4.2 SAN環境でのイメージ配付中に長時間経過しても進捗がない場合

現象

サーバグループへの管理対象サーバノードの追加において、GUIのイベントログに以下のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗が進まない。（以下の??%の部分は実際には71%~80%の値）

```
FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress ??%. <管理対象サーバノード名>
```

管理対象サーバノード側では、OSの起動処理が途中で停止している。

対処

以下のいずれかの原因が考えられます。

- BIOSの設定で、内蔵ディスクが有効になっている。
- 内蔵ディスクの本数がサーバドメイン内の他の管理対象サーバノードと一致していない、もしくは内蔵ディスクが故障している。
- BIOSのHostRAIDの設定が、サーバドメイン内の他の管理対象サーバノードと一致していない。

以下の対処を実施してください。

- 1) 配付処理が実行中の可能性があります。

ドメイン管理サーバがLinuxの場合、ドメイン管理サーバで以下のコマンドを実行し実行中の処理をキャンセルしてください。

```
# /opt/FJSVscw-utils/sbin/scwrcancel --all --cname 'PG:¥rcx¥<処理中の管理対象サーバノード名>'
```

誤って存在しない管理対象サーバノード名を指定した場合、以下のメッセージが通知されます。正しい管理対象サーバノード名を指定して、再度、実行してください。

```
warning : PG : ¥rcx指定したノード名 : bad computer name.
```

※マスタイメージ一括配付の場合は、配付先のすべての管理対象サーバノードに対して、順にキャンセル処理を実行してください。

運用管理サーバがWindowsの場合、ドメイン管理サーバで以下のコマンドを実行し実行中の処理をキャンセルしてください。

```
>インストールディレクトリ¥Domain Manager¥opt¥FJSVrcxdm¥sbin¥rcxdplctl cancel - name <処理中の管理対象サーバノード名>
```

誤って存在しない管理対象サーバノード名を指定した場合、以下のメッセージが通知されます。正しい管理対象サーバノード名を指定して、再度、実行してください。

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcxdplctl:command execution error. subcommand=cancel:指定したノード名:ERRORCODE=126
```

※マスタイメージ一括配付の場合は、配付先のすべての管理対象サーバノードに対して、順にキャンセル処理を実行してください。

- 2) BIOSの設定を見直してください。

(ア) システムBIOSの内蔵 SCSI BIOS設定を確認し、無効に変更してください。

- (イ) 内蔵ディスク数、内蔵ディスクの状態を確認し、異常がある場合は変更してください。
 - (ウ) 内蔵 SCSI BIOSのHostRAIDの設定を確認し、マスタイメージを作成した管理対象サーバノードと同じ設定に変更してください。
- 各BIOSの設定の詳細情報については、各機種のマニュアルを参照してください。

【PRIMERGY BX600におけるBIOS設定例】

システムBIOS

[Advanced]-[PCI Configuration]-[OnBoard SCSI BIOS OPROM]
Disabledを設定する。

内蔵 SCSI BIOS

[Configure]-[View SCSI Controller Settings]-[Configuration]
-[Additional Options]-[HostRAID]

Disabled または Enabledを設定する。

サーバドメイン内の各管理対象サーバノードで設定が一致していることを確認する。

HostRAIDの設定がEnabledの場合、RAIDの以下の項目が一致していることを確認する。

[Configure]-[View HostRAID Settings]-[Type]

- 3) 管理対象サーバノードがサーバグループに追加されている場合、サーバグループから削除してください。
- 4) 管理対象サーバノードをサーバグループに追加してください。

2.3.4.3 マスタイメージ配付中に「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress 5%。」のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗しない場合

現象

マスタイメージの配付中に、GUIのイベントログに以下のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗が進まない。

FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress 5%. <管理対象サーバノード名>

対処

ドメイン管理サーバがLinuxの場合、ドメイン管理サーバ上に出力されているSvRestore.logの内容を確認します。

SvRestore.log の出力先：

/var/opt/FJSVscw-deploysv/log/reqXXXX/01/XXX_<管理対象サーバノード名>

reqXXXX

XXXXには数値が入ります。該当するものが複数ある場合は、更新日時が最新のものを
選択します。

XXX_<管理対象サーバノード名>

XXXには数値が入ります。また <管理対象サーバノード名> にはマスタイメージ配付
先の管理対象サーバノード名が入ります。

SvRestore.logに下記内容が出力されている場合、配付に指定したマスタイメージが壊れている
可能性があります。

```
[Error]
Locate=0x0304
Code=0x16
SystemError=22
```

運用管理サーバがWindowsの場合、ドメイン管理サーバ上に出力されているリストアログの内容を
確認します。

リストアログの名称：XX-SvRestore(<管理対象サーバノード名>).log

XXには、数値が入ります。また〈管理対象サーバノード名〉にはマスタイメージ配付先の管理対象サーバノード名が入ります。但し、処理の内容によっては、〈管理対象サーバノード名〉が記述されない場合があります。

リストログの出力先：インストールディレクトリ¥ScwPro¥tftp¥log¥ID#XXXX

XXXXには数値が入ります。該当するものが複数ある場合は、更新日時が最新のものを選択します。

SvRestore.logに下記内容が出力されている場合、配付に指定したマスタイメージが壊れている可能性があります。

```
[Error]
Locate=0x0304
Code=0x16
SystemError=XXXX
```

XXXXにはOSが返却するエラーコードが入ります。

以下の手順でマスタイメージを更新してください。

- 1) イメージの配付処理が実行中の可能性があります。ドメイン管理サーバで以下のコマンドを実行し実行中の処理をキャンセルしてください。

ドメイン管理サーバがLinuxの場合、ドメイン管理サーバで以下のコマンドを実行し実行中の処理をキャンセルしてください。

```
# /opt/FJSVscw-utils/sbin/scwrcancel --all --cname 'PG:¥rcx¥<処理中の管理対象サーバノード名>'
```

誤って存在しない管理対象サーバノード名を指定した場合、以下のメッセージが通知されます。正しい管理対象サーバノード名を指定して、再度、実行してください。

```
warning:PG:¥rcx指定したノード名:bad computer name.
```

※マスタイメージ一括配付の場合は、配付先のすべての管理対象サーバノードに対して、順にキャンセル処理を実行してください。

運用管理サーバがWindowsの場合、ドメイン管理サーバで以下のコマンドを実行し実行中の処理をキャンセルしてください。

```
>インストールディレクトリ¥Domain Manager¥opt¥FJSVrcxdm¥sbin¥rcxdplctl cancel -name <処理中の管理対象サーバノード名>
```

誤って存在しない管理対象サーバノード名を指定した場合、以下のメッセージが通知されます。正しい管理対象サーバノード名を指定して、再度、実行してください。

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcxdplctl:command execution error. subcommand=cancel:指定したノード名:ERRORCODE=126
```

※マスタイメージ一括配付の場合は、配付先のすべての管理対象サーバノードに対して、順にキャンセル処理を実行してください。

- 2) 管理対象サーバノードの画面上に以下のメッセージが表示されている場合は、[ESC]→[Y]を押して電源をOFFにしてください。

```
Error has occurred!!
Press ESC key to stop Agent. Then turn off this computer and retry your
deployment task or investigate the error log.
.
.
.
```

↓

```
ESC key was pressed. Agent is stopping.
Please wait a moment...
Would you like to turn off this computer? [Y/N]
```

- 3) 管理対象サーバノードがサーバグループに追加されている場合、サーバグループから削除してください。
- 4) マスタイメージの更新を行います。
ドメイン管理サーバがLinuxの場合、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「7.2.2.1 マスタイメージの更新【Linux/Windows】」の手順を実施してください。
運用管理サーバがWindowsの場合、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「7.2.1.1 マスタイメージの更新」の手順を実施してください。
- 5) 管理対象サーバノードをサーバグループに追加してください。

2.3.5 サーバグループへの管理対象サーバノードの追加時に

「FJSVrcx:ERROR:67198」メッセージが出力される。

2.3.5.1 FJSVrcx:ERROR:67198: rcxserver:command execution error.

(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=95) の場合【運用管理サーバがWindowsの場合】

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcxserver:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=95)  
FJSVrcx:ERROR:68095:rcxsoftdeploy:request:<IPアドレス>:rid=<リクエストID>  
:deployment engine error
```

対処

「2.5.1 マスタイメージ作成または配付時に「FJSVrcx:ERROR:67198」メッセージが出力される。」の対処を実施してください。

2.3.5.2 FJSVrcx:ERROR:67198:rcxserver:command execution error.

(rcxfunc=SoftRM, command= rcxsoftdeploy, rcxerrorno=17) の場合

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcxserver:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=17)
```

対処

「2.5.1 マスタイメージ作成または配付時に「FJSVrcx:ERROR:67198」メッセージが出力される。」の対処を実施してください。

2.3.5.3 FJSVrcx:ERROR:67198:rcxserver:command execution error. (rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=129以上) の場合

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcxserver:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=129以上)
```

対処

以下の手順で対処を行ってください。

- 1) サイト管理サーバ上でサイトマネージャを再起動します。

【クラスタ環境の場合】

サイトマネージャのクラスタアプリケーションの停止・起動を実行してください。

【クラスタ環境ではない場合】

以下のコマンドを実行してサイトマネージャの停止・起動を行ってください。

サイト管理サーバがLinux/Solarisの場合、以下のコマンドを実行してください。

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgrctl stop  
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgrctl start
```

運用管理サーバがWindowsの場合、以下の操作を行ってください。

[スタート]-[コントロールパネル(C)] の、“管理ツール” から “サービス” を選択し、サービス画面で、Systemwalker Resource Coordinator Site Manager のサービスの停止・起動を行ってください。

- 2) 復旧のための処置を行います。

「3.2 サイト管理サーバのシステムダウン、またはフェイルオーバー発生時のリカバリ」の対処を実施してください。

2.3.5.4 FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error. (rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=8x) の場合

現象

GUIのイベントログに以下のいずれかのエラーメッセージが出力される。

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=80)  
FJSVrcx:ERROR:68080:<command>:<ip address>:communication error  
  
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=81)  
FJSVrcx:ERROR:68081:<command>:<ip address>:time out  
  
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=82)  
FJSVrcx:ERROR:68082:<command>:<ip address>:socket time out  
  
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=83)  
FJSVrcx:ERROR:68083:<command>:<ip address>:io error
```

対処

「2.5.1.2 FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error. (rcxfunc=SoftRM,command=rcxsoftimage,rcxerrorno=8x)の場合」の対処を実施してください。

2.3.6 Windowsの管理対象サーバノードをサーバグループに追加した後、管理対象サーバノードに「ネットワーク上の別システムと競合するIPアドレスがあります」というダイアログが表示される。

現象

Windowsの管理対象サーバノードをサーバグループに追加した後、管理対象サーバノードのログインダイアログの前に、「ネットワーク上の別システムと競合するIPアドレスがあります」というエラーダイアログが表示される。

対処

対処は不要です。そのまま問題なく使用することができます。詳細についてはSystemcastWizard Professionalのサイトを参照してください。

URL <http://software.fujitsu.com/jp/scw-dcw/>

上記サイト内の以下のページを確認してください。

- ・技術情報ページの「Windowsシステムのクローンセットアップ中にAPIPA (Automatic Private IP Addressing) IPアドレスが重複する問題と対処方法」

2.3.7 EMC Symmetrixシリーズに接続されている管理対象サーバノードのサーバグループへの追加がエラー終了する。

GUIのイベントログに表示されるメッセージ毎に下記に示す対処を行ってください。下記以外のメッセージに関しては、“Systemwalker Resource Coordinator メッセージ集”に従い対処を行ってください。

2.3.7.1 FJSVrcx:ERROR:62062: The setup to storage was interrupted. An error occurred in processing request to storage.の場合

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

```
FJSVrcx:ERROR:62062:rcxserver:The setup to storage was interrupted. An error occurred in processing request to storage.
```

対処

EMC Symmetrixシリーズの管理ソフトウェア (EMC Solutions Enabler) を使い、以下を確認してください。(EMC Solutions Enablerの使い方については、EMC Solutions Enablerのマニュアルを参照してください。)

- 1) symconfigure query コマンドを使用して、SymmetrixアレイのConfiguration Change セッション

ヨン(mapping or unmapping)が残ったままになっていないか確認してください。

もし、Configuration Change セッションが残ったままの場合は、symconfigure abort コマンドを使用してセッションを中断してください。

2) symdev list -lock コマンドを使用して、割り当て対象のStorageVolume (EMCの用語でdevice) がロックされたままの状態になっていないか確認してください。

もし、StorageVolumeがロックされたままの場合は、symdev release コマンドを使用してロックを開放してください。

3) symcfg list -lock コマンドを使用して、Symmetrixアレイが外部ロックを保持したままの状態になっていないか確認してください。

もし、外部ロックが保持されたままの場合は、symcfg release コマンドを使ってロックを開放してください。

上記を確認後、“Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編”の“付録G EMC社ディスクアレイの補足情報”にある以下の章にある記述に従い、対処を行ってください。

- G. 1. 1 異常発生時などの対応
- G. 1. 2無効な装置設定について

2. 3. 7. 2 FJSVrcx:ERROR:62043:command:The unit in which Provisioning is impossible is contained in specified devices.の場合

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

```
FJSVrcx:ERROR:62043:command:The unit in which Provisioning is impossible is contained in specified devices.
```

対処

本エラーは、サーバグループへ追加対象の管理対象サーバノードに対して、Symmetrixアレイのボリュームが既に割り当てられている (StorageVolumeがMappingされ、かつ、Maskingされている) 場合に発生します。

EMC Symmetrixシリーズの管理ソフトウェア (EMC Solutions Enabler) を使って当該サーバに対する設定を解除した後、再度サーバ追加操作を行ってください。

[参考]

リソースコーディネータの関係管理表示でもSymmetrixアレイのMapping状態とMasking状態を確認することができます。詳しくは、“Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編”の“付録G EMC社ディスクアレイの補足情報”にある以下を参照してください。

- G. 1. 3. 1 Storage VolumeのMapping状況の確認
- G. 1. 3. 2 AffinityGroupの状況確認 (Masking & HostLUN Information)

2. 3. 8 サーバ追加 (Windows OS) を実施すると、以下のエラーメッセージを出力して処理に失敗することがあります。

現象

サーバ追加 (Windows OS) を実施すると、以下のエラーメッセージを出力して処理に失敗することがあります。

【ドメイン管理サーバがLinuxの場合】

FJSVrcx:ERROR:68295:deployment engine error:
(5-e0000088[<サーバ名>] rcxsoftdeploy:request:<IPアドレス>:rid=<リクエストID>)

【運用管理サーバがWindowsの場合】

FJSVrcx:ERROR:67198:rcxserver:command execution error.
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=95)
FJSVrcx:ERROR:68095:rcxsoftdeploy:request:<IPアドレス>:
rid=<リクエストID>:deployment engine error

[環境]

次の条件を満たすマスタイメージを用いてサーバ追加を実施すると本現象が発生します。

- 1) マスタイメージがWindowsであり、かつ
- 2) そのマスタイメージ作成元となった管理対象サーバにおいて、イメージ操作モジュール(クライアントエージェント)が、一度でもルートフォルダ(C:¥など)にインストールされたことがある場合

対処

ルートフォルダのイメージ操作モジュールを削除し、他のフォルダに再インストールし、マスタイメージを採取し直して下さい。

2.3.9 サーバグループへの管理対象サーバノードの追加時に「FJSVrcx:ERROR:68295」メッセージが出力される。

2.3.9.1 FJSVrcx:ERROR:68295:deployment engine error:detail(info)の場合

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

FJSVrcx:ERROR:68295:deployment engine error: detail(info rcxsoftdeploy:request:<IP
アドレス>:rid=<リクエストID>)

対処

「Systemwalker Resource Coordinator トラブルシューティングガイド」の「2.5.6 マスタイメージ作成または配付時に「FJSVrcx:ERROR:68295」メッセージが出力される。」の対処を実施してください。

2.4 管理対象サーバノードの削除に関するトラブル

管理対象サーバノードの削除時に発生するトラブルの対処方法について説明します。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.4.1	基本ドメイン、またはサーバプールグループからの管理対象サーバノードの削除を行なった場合に電源がOFFにならない。	L/W	L/W	-
2.4.2	EMC Symmetrix シリーズに接続されている管理対象サーバノードのサーバグループからの削除がエラー終了する。	L	L	L

2.4.1 基本ドメイン、またはサーバプールグループからの管理対象サーバノードの削除を行なった場合に電源がOFFにならない。

現象

基本ドメイン、またはサーバプールグループからの管理対象サーバノードの削除を行なった場合に電源がOFFにならない。

対処

筐体管理装置へのアクセスができない可能性があります。
管理対象サーバノードの削除は完了しているため、必要であれば管理対象サーバノードの電源を手動でOFFにしてください。

2.4.2 EMC Symmetrixシリーズに接続されている管理対象サーバノードのサーバグループからの削除がエラー終了する。

現象

EMC Symmetrixシリーズに接続されている管理対象サーバノードのサーバグループからの削除がエラー終了する。

対処

「2.3.7 EMC Symmetrixシリーズに接続されている管理対象サーバノードのサーバグループへの追加がエラー終了する。」の対処を実施してください。

2.5 マスタイメージの作成・配付・複写に関するトラブル

マスタイメージを作成／配付／複写する際に発生するトラブルの対処方法について説明します。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.5.1	マスタイメージ作成または配付時に「FJSVrcx:ERROR:67198」メッセージが出力される。	L/W	L/W	L/W
2.5.2	マスタイメージの作成・更新・配付処理が終了しない。	L/W	L/W	L/W
2.5.3	「FJSVrcx:ERROR:61501」メッセージが出力され、マスタイメージの配付処理が失敗する。	L/W	L/W	L/W
2.5.4	マスタイメージの作成・更新・配布またはバックアップイメージの作成・復元において「FJSVrcx:ERROR:67181」メッセージが出力される。	L/W	-	-
2.5.5	Windowsの管理対象サーバノードにマスタイメージを配布した後、管理対象サーバノードに「ネットワーク上の別システムと競合するIPアドレスがあります」というダイアログが表示される。	L/W	L/W	W
2.5.6	マスタイメージ作成または配付時に「FJSVrcx:ERROR:68295」メッセージが出力される。	L	L	-
2.5.7	バックアップイメージ復元時に「FJSVrcx:ERROR:68297」メッセージが出力される。	L	L	-

2.5.1 マスタイメージ作成または配付時に「FJSVrcx:ERROR:67198」メッセージが出力される。

2.5.1.1 FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.

(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=95)の場合【運用管理サーバがWindowsの場合】

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

マスタイメージまたはバックアップイメージ作成の場合

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=95)
FJSVrcx:ERROR:68095:rcxsoftimage:create:<IPアドレス>;rid=<リクエストID>
:deployment engine error
```

マスタイメージ配付またはバックアップイメージ復元の場合

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=95)
FJSVrcx:ERROR:68095:rcxsoftdeploy:request:<IPアドレス>;rid=<リクエストID>
```

:deployment engine error

対処

以下の確認と対処を実施してください。

- Microsoft LAN Manager モジュールがインストールされていない。
ドメイン管理サーバの登録後、初めてマスタイメージ作成を実施し本メッセージが出力された場合、マスタイメージ作成に必要なモジュールが正しく配置されていない可能性があります。

「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.3 インストール手順」の「LAN Manager モジュールの配置」で指定した“MS-DOS LAN Manager モジュール”の配置場所を確認し、必要なモジュールが配置されていることを確認してください。正しく配置されていない場合は、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.1.2 必須ソフトウェアの準備、および確認」を参照し、“MS-DOS LAN Manager モジュール”を入手し、モジュールを再配置してください。

システムの再起動後に“MS-DOS LAN Manager モジュール”の配置を行った場合、配置内容を有効とするため、ドメイン管理サーバ上で[スタート]-[コントロールパネル(C)]の“管理ツール”から“サービス”を開き、サービス画面で、以下の操作を実行してください。

- Deployment Service の停止
- Deployment Service の開始

モジュールの配置が完了した後、以下の手順により対処してください。

- 1) Windowsの管理対象サーバノードの場合は、「2.5.1.2 操作B - Windowsの管理対象サーバノードのIPアドレスの変更」の処理を実施してください。
- 2) マスタイメージ作成対象の管理対象サーバを再起動し、対象の管理対象サーバノードでリソースコーディネータエージェントを起動します。手順詳細については「2.5.1.2 操作A - リソースコーディネータエージェントの起動」を参照してください。
- 3) マスタイメージ作成を再度実施してください。

- デプロイエンジンでエラーが発生。
以下の確認と対処を実施してください。

- 1) リクエストの実行状態を確認します。
ドメイン管理サーバに OS の管理者 (Administrators グループのユーザ) でログインして、以下のコマンドを実行してください。出力されたファイルを Web ブラウザで表示してください。

```
>cd "インストールディレクトリ(*1)¥ScwPro¥support" <RETURN>  
>scwhelp.bat --output <出力ファイル名.html> <リクエストID>
```

*1: 「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.3 インストール手順」で指定したディレクトリ関連するエラー情報を HTML 形式で出力します。

- 2) 1)で取得したエラーイベントログに「原因と対応」欄が表示されている場合、確認の上、対処してください。

SystemcastWizard Professionalに関する参考情報を下記のサイトから参照することができます。

URL <http://software.fujitsu.com/jp/scw-dcw/>

上記サイト内の以下のページをご確認ください。

- FAQページの「Systemwalker Resource Coordinatorとの連携において、注意事項はありますか?」
- 技術情報ページの「クライアントエージェントの動作確認方法」
- ドキュメントページの「エラーコード別対処方法一覧」

- 3) 1)で取得したエラーイベントログの「詳細データ」欄のResourceが“RCnrConfig”の場合、スワップ領域作成でエラーが発生したことを示します。
スワップ領域作成でエラーになった場合、下記の項目について確認ください。
- ・「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「3.1.2 サーバグループの設計」の「SAN ブートを利用する場合の内蔵ディスクの活用」を確認し、スワップ領域作成方法を確認してください。
 - ・マスタイメージ作成元のディスク構成とマスタイメージ配付先のディスク構成が同じであることを確認してください。USBメモリ、CD-ROMもディスクと見なされますので注意してください。
- 4) 1)で取得したエラーイベントログの「詳細データ」欄のResourceが“RCnrScript”の場合など、対処方法が不明な場合は、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「E.1 調査資料の採取方法」の手順で調査資料採取を行い、当社技術員にご連絡ください。

上記で原因が解決した場合、エラーが発生した際の操作に応じ、以下の手順で対処してください。

[マスタイメージ作成中、または更新中の場合]

- 1) イメージ作成元の管理対象サーバノードが起動しているか確認し、停止している場合は起動してください。
また、管理対象サーバノードの画面上に以下のメッセージが表示されている場合は、[ESC]→[Y]を押して電源をOFFした後、電源ONして起動してください。

```

Error has occurred!!
Press ESC key to stop Agent. Then turn off this computer and retry your
deployment task or investigate the error log.
      .
      .
      .
  
```



```

ESC key was pressed. Agent is stopping.
Please wait a moment...
Would you like to turn off this computer? [Y/N]
  
```

- 2) Windowsの管理対象サーバノードの場合は、「2.5.1.2 操作B - Windowsの管理対象サーバノードのIPアドレスの変更」の処理を実施してください。
- 3) 対象の管理対象サーバノードでリソースコーディネータエージェントを起動します。手順詳細については「2.5.1.2 操作A - リソースコーディネータエージェントの起動」を参照してください。
- 4) マスタイメージ作成、またはマスタイメージ更新を再度実施してください。

[サーバグループへのサーバ追加、またはマスタイメージ配付中だった場合]

- 1) 管理対象サーバノードの画面上に以下のメッセージが表示されている場合は、[ESC]→[Y]を押して電源をOFFにしてください。

```

Error has occurred!!
Press ESC key to stop Agent. Then turn off this computer and retry your
deployment task or investigate the error log.
      .
      .
      .
  
```



```

ESC key was pressed. Agent is stopping.
Please wait a moment...
Would you like to turn off this computer? [Y/N]
  
```

- 2) 管理対象サーバノードがサーバグループに追加されている場合、サーバグループから削除

- してください。
- 3) 管理対象サーバノードをサーバグループに追加してください。

[バックアップイメージ作成中だった場合]

- 1) バックアップイメージ作成元の管理対象サーバノードが起動しているか確認し、停止している場合は起動してください。
- 2) バックアップイメージを再度作成してください。

[バックアップイメージ復元中だった場合]

- 1) バックアップイメージ復元先の管理対象サーバノードの電源がONになっているか確認し、電源OFFの場合は電源をONしてください。

【注意点】

バックアップイメージの復元に失敗しているため、電源ONを行ってもOSが起動しない場合があります。この場合でもそのまま次の手順に進んでください。

- 2) バックアップイメージを再度復元してください。

【注意点】

GUIのイベントログに「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress 5%。」のメッセージが出力された後、10分程度経過しても「FJSVrcx:INFO:21114」のメッセージが出力されない場合は、リセットか、電源の入れ直しを行ってください。

2.5.1.2 FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error. (rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=8x)の場合

現象

クライアントのGUIイベントログに以下のいずれかのエラーメッセージが出力される。

マスタイメージまたはバックアップイメージ作成の場合

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=80)  
FJSVrcx:ERROR:68080:<command>:<ip address>:communication error  
  
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=81)  
FJSVrcx:ERROR:68081:<command>:<ip address>:time out  
  
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, ommand=rcxsoftimage, rcxerrorno=82)  
FJSVrcx:ERROR:68082:<command>:<ip address>:socket time out  
  
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=83)  
FJSVrcx:ERROR:68083:<command>:<ip address>:io error
```

マスタイメージ配付またはバックアップイメージ復元の場合

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=80)  
FJSVrcx:ERROR:68080:<command>:<ip address>:communication error  
  
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=81)  
FJSVrcx:ERROR:68081:<command>:<ip address>:time out  
  
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.
```

```
(rcxfunc=SoftRM,command=rcxsoftdeploy,rcxerrorno=82)
FJSVrcx:ERROR:68082:<command>:<ip address>:socket time out

FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.
(rcxfunc=SoftRM,command=rcxsoftdeploy,rcxerrorno=83)
FJSVrcx:ERROR:68083:<command>:<ip address>:io error
```

対処

以下の確認をしてください。

- 1) サイト管理サーバと<ip address> のサーバ間のネットワーク環境に問題がないか確認し、異常があった場合はその原因を取り除いてください。
- 2) <ip address> のサーバが起動しているか確認し、停止している場合は起動してください。

イメージの作成・更新・配付・復元処理が実行中の可能性があります。

ドメイン管理サーバがLinuxの場合、ドメイン管理サーバで以下のコマンドを実行し実行中の処理をキャンセルしてください。

```
# /opt/FJSVscw-utils/sbin/scwrcancel --all --cname 'PG:¥rcx<処理中の管理対象サーバノード名>'
```

誤って存在しない管理対象サーバノード名を指定した場合、以下のメッセージが通知されます。正しい管理対象サーバノード名を指定して、再度、実行してください。

```
warning : PG:¥rcx指定したノード名 : bad computer name.
```

※マスタイメージ一括配付の場合は、配付先のすべての管理対象サーバノードに対して、順にキャンセル処理を実行してください。

運用管理サーバがWindowsの場合、ドメイン管理サーバで以下のコマンドを実行し実行中の処理をキャンセルしてください。

```
>インストールディレクトリ¥Domain Manager¥opt¥FJSVrcxdm¥sbin¥rcxdplctl cancel -
name <処理中の管理対象サーバノード名>
```

誤って存在しない管理対象サーバノード名を指定した場合、以下のメッセージが通知されます。正しい管理対象サーバノード名を指定して、再度、実行してください。

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcxdplctl:command execution error. subcommand=cancel: 指定し
たノード名:ERRORCODE=126
```

※マスタイメージ一括配付の場合は、配付先のすべての管理対象サーバノードに対して、順にキャンセル処理を実行してください。

[マスタイメージ作成中、または更新中だった場合]

- 1) マスタイメージ作成元の管理対象サーバノードが起動しているか確認し、停止している場合は起動してください。
また、管理対象サーバノードの画面上に以下のメッセージが表示されている場合は、[ESC]→[Y]を押して電源をOFFした後、電源ONして起動してください。

```
Error has occurred!!
Press ESC key to stop Agent. Then turn off this computer and retry your
deployment task or investigate the error log.
```

↓

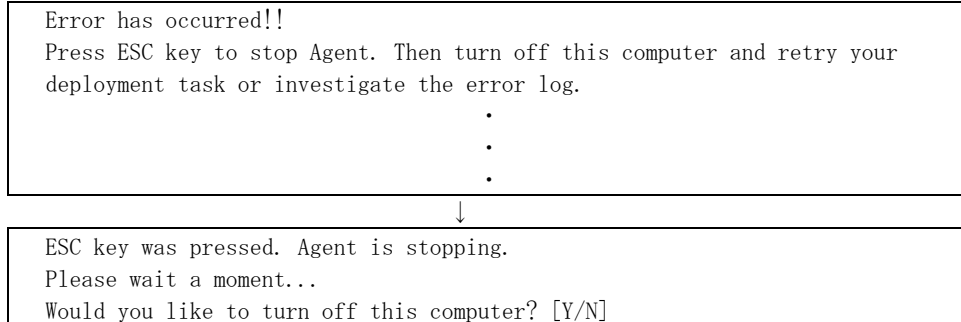
```
ESC key was pressed. Agent is stopping.
Please wait a moment...
Would you like to turn off this computer? [Y/N]
```

- 2) 管理対象サーバノードがWindowsの場合は、「2.5.1.2 操作B - Windowsの管理対象サーバノードのIPアドレスの変更」の処理を実施してください。

- 3) 対象の管理対象サーバノードでリソースコーディネータエージェントを起動します。手順詳細については「2.5.1.2 - 操作A - リソースコーディネータエージェントの起動」を参照してください。
- 3) マスタイメージ作成、または更新を再度実施してください。

[サーバグループへのサーバ追加、またはマスタイメージ配付中だった場合]

- 1) 管理対象サーバノードの画面上に以下のメッセージが表示されている場合は、[ESC]→[Y]を押して電源をOFFにしてください。



- 2) 管理対象サーバノードがサーバグループに追加されている場合、サーバグループから削除してください。
- 3) 管理対象サーバノードをサーバグループに追加してください。

[バックアップイメージ作成中だった場合]

- 1) バックアップイメージ作成元の管理対象サーバノードが起動しているか確認し、停止している場合は起動してください。
- 2) バックアップイメージを再度作成してください。

[バックアップイメージ復元中だった場合]

- 1) バックアップイメージ復元先の管理対象サーバノードの電源がONになっているか確認し、電源OFFの場合は電源をONしてください。

【注意点】

バックアップイメージの復元に失敗しているため、電源ONを行ってもOSが起動しない場合があります。この場合でもそのまま次の手順に進んでください。

- 2) バックアップイメージを再度復元してください。

【注意点】

GUIのイベントログに「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress 5%。」のメッセージが出力された後、10分程度経過しても「FJSVrcx:INFO:21114」のメッセージが出力されない場合は、リセットか、電源の入れ直しを行ってください。

※ 操作A - リソースコーディネータエージェントの起動

[Linuxの場合]

スーパーユーザでログインし、以下の操作を実施してください。

```
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl start
```

[Windowsの場合]

OSの管理者(Administrator)でログオンし、以下の操作を実施してください。

以下の手順で、Systemwalker Resource Coordinator Agent サービスの状態が停止状態であれば、開始に設定してください。

- 1) 「コントロールパネル」を起動します。
- 2) 「管理ツール」をダブルクリックします。
- 3) 「サービス」をダブルクリックします。
- 4) Systemwalker Resource Coordinator Agentのサービスプロパティを起動します。
- 5) 「開始」ボタンをクリックします。

※ 操作B - 管理対象サーバノードがWindowsの場合のIPアドレスの変更

管理対象サーバがWindowsの場合、対象の管理対象サーバノードのIPアドレスの設定を確認します。

- (i) エラーが発生した管理対象サーバを再起動し、OSの管理者 (Administrator) でログオンしてください。
- (ii) Windowsの操作手順に従って、管理対象サーバノードの管理LANと業務LANのIPアドレスの設定(アドレス設定および、状態)を確認します。
- (iii) (ii)の結果、各々のIPアドレスがDHCPで設定されている、かつ状態が有効な場合以下の操作を実施してください。
 - a) Windowsの設定変更手順に従って固定のIPアドレスに変更
 - b) 管理対象サーバノードを再起動

2.5.1.3 FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error. (rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=15, または17) の場合

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

- ・ マスタイメージ作成の場合

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=15)  
または  
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=17)
```

- ・ マスタイメージ配付の場合

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=15)  
または  
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=17)
```

対処

当現象の発生したマスタイメージ作成または配付時に使用するマスタイメージが他の処理で使用中です。

以下の処理が同時に行われている可能性があります。

- ・ サーバグループへのサーバ追加
- ・ サーバグループの削除
- ・ マスタイメージ作成・配付

上記に該当する場合、同時に動作している処理が終了後、エラーとなった処理を再実行してください。

2.5.1.4 FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error. (rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=129以上) の場合

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

マスタイメージ作成の場合

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftimage, rcxerrorno=129以上)
```

マスタイメージ配付の場合

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=129以上)
```

対処

以下の手順で対処を行ってください。

- 1) サイト管理サーバ上でサイトマネージャを再起動します。
【クラスタ環境の場合】
サイトマネージャのクラスタアプリケーションの停止・起動を実行してください。
【クラスタ環境ではない場合】
サイトマネージャの停止・起動を行ってください。
サイト管理サーバがLinux/Solarisの場合、以下のコマンドを実行してください。

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgctl stop  
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxmgctl start
```

運用管理サーバがWindowsの場合、以下の作業を行ってください。

[スタート]-[コントロールパネル(C)] の、“管理ツール” から “サービス” を選択し、サービス画面で、Systemwalker Resource Coordinator Site Manager のサービスの停止・起動を行ってください。

- 2) 復旧のための処置を行います。
「3.2 サイト管理サーバのシステムダウン、またはフェイルオーバー発生時のリカバリ」の対処を実施してください。

2.5.1.5 FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error. (rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=96) の場合【運用管理サーバがWindowsの場合】

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

バックアップイメージ復元の場合

```
FJSVrcx:ERROR:67198:rcximage:command execution error.  
(rcxfunc=SoftRM, command=rcxsoftdeploy, rcxerrorno=96)  
FJSVrcx:ERROR:68096:rcxsoftdeploy:request:<IPアドレス>, deploy  
(32:C:¥Program Files¥Systemwalker Resource Coordinator¥Site Manager¥  
opt¥FJSVrcxmr¥sys¥rcxsvrctl.exe (14), <サーバ名>:  
Remote command abnormal end. ):engine cli error
```

対処

バックアップイメージ復元先の管理対象サーバノードの電源がONになっている場合は、バックアップイメージの復元を再実行してください。

2.5.2 マスタイメージの作成・更新・配付処理が終了しない。

2.5.2.1 マスタイメージ配付中に「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress ??%。」のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗しない場合

現象

マスタイメージ(Windows)の配付中に、GUIのイベントログに以下のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗が進まない。(以下の??%の部分は実際には71%~80%の値)

```
FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress ??%. <管理対象サーバノード名>
```

管理対象サーバノード側では、プロダクトキー入力待ちとなりマスタイメージ配付処理が終了しない。

対処

「2.3.4 サーバグループへの管理対象ノードの追加時に「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress ??%。」のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗しない。」の対処を実施してください。

2.5.2.2 「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress XX%。」のメッセージが出力されない場合

現象

マスタイメージの作成・配付を実行後、30分以上経過し、「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress ??%. <管理対象サーバノード名>」のメッセージが、イベントログに出力されない。

対処

「2.3.4 サーバグループへの管理対象ノードの追加時に「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress ??%。」のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗しない。」の対処を実施してください。

2.5.2.3 マスタイメージ配付中に「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress 5%。」のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗しない場合

現象

マスタイメージの配付中に、GUIのイベントログに以下のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗が進まない。

```
FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress 5%. <管理対象サーバノード名>
```

対処

「2.3.4.3 マスタイメージ配付中に「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress 5%。」のメッセージが出力された後、長時間経過しても進捗しない場合」の対処を実施してください。

2.5.3 「FJSVrcx:ERROR:61501」メッセージが出力され、マスタイメージの配付処理が失敗する。

現象

マスタイメージの配付時に以下のエラーメッセージがイベントログに出力され、配付処理が失敗する。メッセージ中のeventには“PRE_TGTSVR_IMAGE_UPDATE”、actionには“rcxfiletrans backup”が表示されている。

<表示例>

(管理対象サーバノードがLinuxの場合)

```
FJSVrcx:ERROR:61501:the provisioning handler terminated abnormally. product=_USER1(use
r_defined), target=server1, event=PRE_TGTSVR_IMAGE_UPDATE, action="/opt/FJSVrcxat/sbin/r
cxfiletrans backup -list /etc/opt/user1/filelist -ipaddr 192.168.0.99
```

(管理対象サーバノードがWindowsの場合)

```
FJSVrcx:ERROR:61501:the provisioning handler terminated abnormally. product=_USER1(use
r_defined), target=server2, event=PRE_TGTSVR_IMAGE_UPDATE, action="C:\Program Files\Sys
temwalker Resource Coordinator\Agent\bin\rcxfiletrans.bat" backup -list C:\etc\user1
\filelist -ipaddr 192.168.0.99
```

対処

以下の確認と対処を実施してください。

- 1) 管理対象サーバノード側で、現在のプロビジョニング動作定義の設定内容を以下コマンドで確認してください。
なお、-idに指定する値は、イベントログのエラーメッセージ中の“product”に表示されている値(カッコを除いた文字列)を指定してください。
以下コマンドを実行して表示された設定内容について、rcxfiletransコマンドのパラメータ指定が正しいかどうか、特に-ipaddrに指定されているIPアドレスが、ドメイン管理サーバのIPアドレスか確認してください。

Linuxの場合

```
/opt/FJSVrcxat/sbin/rcxatevt info -id <id>
```

Windowsの場合

```
<インストールディレクトリ>\Agent\bin\rcxatevt info -id <id>
```

(表示例)

```
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxatevt info -id _USER1
PRE_TGTSVR_IMAGE_UPDATE /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxfiletrans backup -list /etc/opt/user1
/filelist -ipaddr 192.168.0.99
POST_TGTSVR_IMAGE_INSTALL /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxfiletrans restore -delete /etc/opt/
user1/filelist -ipaddr 192.168.0.99
```

【IPアドレスがドメイン管理サーバではなかった場合】

- 2) プロビジョニング動作定義ファイルを作成します。
 - 1) で表示された内容を元に、-ipaddrの指定をドメイン管理サーバのIPアドレスに修正して作成します。

Linuxの場合

ファイル名 : logbackup.def

```
PRE_TGTSVR_IMAGE_UPDATE /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxfiletrans backup -list /etc/opt
/user1/filelist -ipaddr 192.168.0.10
POST_TGTSVR_IMAGE_INSTALL /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxfiletrans restore -delete /et
```

```
c:/opt/user1/filelist -ipaddr 192.168.0.10
```

Windowsの場合

ファイル名 : logbackup.def

```
PRE_TGTSVR_IMAGE_UPDATE "C:%Program Files\Systemwalker Resource Coordinator\Agent%sbin%rcxfiletrans.bat" backup -list C:%etc%user1%filelist -ipaddr 192.168.0.10
POST_TGTSVR_IMAGE_INSTALL "C:%Program Files\Systemwalker Resource Coordinator\Agent%sbin%rcxfiletrans.bat" restore -delete C:%etc%user1%filelist -ipaddr 192.168.0.10
```

- 3) プロビジョニング動作定義ファイルを更新します。
rcxatevt コマンドを使用して、2)で作成したプロビジョニング動作定義ファイルを更新します。rcxatevt コマンドの使用方法は、サイト管理サーバがLinux/Solarisの場合、「Systemwalker Resource Coordinator コマンドリファレンス」の「10.1 rcxatevt【Linux/Windows】」、運用管理サーバがWindowsの場合「Systemwalker Resource Coordinator コマンドリファレンス」の「8.1 rcxatevt」を参照してください。

Linuxの実行例

```
# /opt/FJSVrcxat/sbin/rcxatevt update -id _USER1 -name user_defined -target agent -priority first -file /etc/opt/user1/logbackup.def
```

Windowsの実行例

```
> "C:%Program Files\Systemwalker Resource Coordinator\Agent%sbin%rcxatevt" update -id _USER1 -name user_defined -target agent -priority first -file C:%etc%user1%logbackup.def
```

- 4) 1)の手順を再度実行して、3)の設定が正しく行われているか確認してください。
- 5) 「Systemwalker Resource Coordinator メッセージ集」の「1.3.1 61XXX 系」の「61501」の対処を参考に、対処してください。

【IPアドレスがドメイン管理サーバだった場合】

- 1) ドメイン管理サーバがLinuxの場合では「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「H.1.2 調査資料の採取」を、運用管理サーバがWindowsの場合では「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「E.1.2 調査資料の採取」を参考に、管理対象サーバノード上で詳細調査資料の採取を行ってください。
詳細調査資料の採取を行う管理対象サーバノードは、エラーメッセージ「FJSVrcx:ERROR:61501」のtargetに示されているサーバノード名のマシンになります。
- 2) 詳細調査資料の採取後、当社技術員にご連絡ください。

2.5.4 マスタイメージの作成・更新・配付またはバックアップイメージの作成・復元において「FJSVrcx:ERROR:67181」メッセージが出力される。

現象

マスタイメージの作成・更新・配付またはバックアップイメージの作成・復元において、以下のエラーメッセージが出力される。

```
FJSVrcx:ERROR:67181:rcximage:ノード名:is not maintenance mode
```

対処

以下の原因が考えられます。

イメージ操作対象（メッセージ中のノード名）が以下のいずれかの状態である可能性があります。

- 1) 運用モードである。
- 2) サーバグループにイメージがない状態でのサーバグループへ追加を行った直後。（一度も保守モードを解除していない）
- 3) サーバグループへのサーバ追加処理でエラーが発生している。

以下の確認と対処を実施してください。

- 1) GUI または `rcxinfo` コマンドでサーバの状態を確認してください。
運用モードの場合は、保守モードへ変更した後、処理を再実行してください。
- 2) サーバグループにイメージが設定されているか確認してください。
イメージが設定されていない場合、追加直後の状態の可能性があります。一度運用モードへ変更後、保守モードへ変更したのち、処理を再実行してください。
- 3) イベントログを確認し、対象の管理対象サーバが正常にサーバグループへの追加処理が終了しているか確認してください。
エラーが発生している場合、管理対象サーバをサーバグループから削除したのち、サーバグループへの追加を行ってください。

2.5.5 管理対象サーバノードがWindowsの場合、マスタイメージを配信した後、管理対象サーバノードに「ネットワーク上の別システムと競合するIPアドレスがあります」というダイアログが表示される。

現象

管理対象サーバノードがWindowsの場合、マスタイメージを配信した後、管理対象サーバノードのログインダイアログの前に「ネットワーク上の別システムと競合するIPアドレスがあります」というエラーダイアログが表示される。

対処

対処は不要です。そのまま問題なく使用することができます。詳細については SystemcastWizard Professional のサイトを参照してください。

URL <http://software.fujitsu.com/jp/scw-dcw/>

上記サイト内の以下のページを確認してください。

- ・技術情報ページの「Windowsシステムのクローンセットアップ中にAPIPA (Automatic Private IP Addressing) のIPアドレスが重複する問題と対処方法」

2.5.6 マスタイメージ作成または配信時に「FJSVrcx:ERROR:68295」メッセージが出力される。

2.5.6.1 FJSVrcx:ERROR:68295:deployment engine error:detail(info)の場合

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

マスタイメージ作成またはバックアップイメージ作成の場合

```
FJSVrcx:ERROR:68295:deployment engine error:detail(info rcxsoftimage:create:<IPアドレス>;rid=<リクエストID>)
```

マスタイメージ配付またはバックアップイメージ復元の場合

```
FJSVrcx:ERROR:68295:deployment engine error:detail(info rcxsoftdeploy:request:<IPアドレス>;rid=<リクエストID>)
```

対処

以下の確認と対処を実施してください。

- Microsoft LAN Manager モジュールがインストールされていない。
ドメイン管理サーバの登録後、初めてマスタイメージ作成を実施し本メッセージが出力された場合、マスタイメージ作成に必要なモジュールが正しく配置されていない可能性があります。

「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.2.4.4 Microsoft LAN Manager モジュールの配置」を参照し、必要なモジュールが配置されていることを確認してください。

正しく配置されていない場合は、「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.2.4.4 Microsoft LAN Manager モジュールの配置」を参照し、モジュールを再配置してください。

モジュールの配置が完了した後、以下の手順により対処してください。

- 1) Windowsの管理対象サーバノードの場合は、「2.5.1.2 操作B - Windowsの管理対象サーバノードのIPアドレスの変更」の処理を実施してください。
 - 2) マスタイメージ作成対象の管理対象サーバを再起動し、対象の管理対象サーバノードでリソースコーディネータエージェントを起動します。手順詳細については「2.5.1.2 操作A - リソースコーディネータエージェントの起動」を参照してください。
 - 3) マスタイメージ作成を再度実施してください。
- デプロイエンジンでエラーが発生。
以下の確認と対処を実施してください。

- 1) リクエストの実行状態を確認します。
ドメイン管理サーバに管理者(root)でログオンし、以下のコマンドを実行してください。関連するエラー情報がHTML形式で出力されます。出力されたファイルをWebブラウザで表示してください。

```
# /opt/FJSVscw-utils/sbin/scwhelp --output <出力ファイル名.html> <リクエストID>
```

- 2) 1)で取得したエラーイベントログに「原因と対応」欄が表示されている場合、確認の上、対処してください。

SystemcastWizard Professionalに関する参考情報を下記のサイトから参照することができます。

URL <http://software.fujitsu.com/jp/scw-dcw/>

上記サイト内の以下のページをご確認ください。

- FAQページの「Systemwalker Resource Coordinatorとの連携において、注意事項はありますか?」
 - 技術情報ページの「クライアントエージェントの動作確認方法」
 - ドキュメントページの「エラーコード別対処方法一覧」
- 3) 1)で取得したエラーイベントログの「詳細データ」欄のResourceが“RCnrConfig”の場合、スワ

ップ領域作成でエラーが発生したことを示します。

スワップ領域作成でエラーになった場合、下記の項目について確認ください。

- ・「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「3.1.2 サーバグループの設計」の「SAN ブートを利用する場合の内蔵ディスクの活用」を確認し、スワップ領域作成方法を確認してください。
- ・マスタイメージ作成元のディスク構成とマスタイメージ配付先のディスク構成が同じであることを確認してください。USBメモリ、CD-ROMもディスクと見なされますので注意してください。

- 4) 1)で取得したエラーイベントログの「詳細データ」欄のResourceが“RCnrScript”の場合など、対処方法が不明な場合は、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「H.1 調査資料の採取方法」の手順で調査資料採取を行い、当社技術員にご連絡ください。

上記で原因が解決した場合、エラーが発生した際の操作に応じ、以下の手順で対処してください。

[マスタイメージ作成中、または更新中の場合]

- 1) イメージ作成元の管理対象サーバノードが起動しているか確認し、停止している場合は起動してください。
また、管理対象サーバノードの画面上に以下のメッセージが表示されている場合は、[ESC]→[Y]を押して電源をOFFした後、電源ONして起動してください。

```
Error has occurred!!
Press ESC key to stop Agent. Then turn off this computer and retry your
deployment task or investigate the error log.
.
.
.
```



```
ESC key was pressed. Agent is stopping.
Please wait a moment...
Would you like to turn off this computer? [Y/N]
```

- 2) Windowsの管理対象サーバノードの場合は、「2.5.1.2 操作B - Windowsの管理対象サーバノードのIPアドレスの変更」の処理を実施してください。
- 3) 対象の管理対象サーバノードでリソースコーディネータエージェントを起動します。手順詳細については「2.5.1.2 操作A - リソースコーディネータエージェントの起動」を参照してください。
- 4) サイト管理サーバで以下のコマンドを実行し、業務IPアドレスの再活性化を行ってください。実行するには、管理者権限が必要です。

```
# /opt/FJSVnrpc/bin/nrcsgipset -s <ipaddress> -g <server group> -d <server domain> -m
```

<ipaddress> : インタフェースを活性化する管理対象サーバノードの管理IPアドレス

<server group> : サーバグループ名

(クライアントで設定したサーバグループ名)

<server domain> : サーバドメイン名

(クライアントで設定したサーバドメイン名)

※最後の「-m」を付け忘れると、今まで割り当てていたIPアドレスではなく、新規のIPアドレスを割り当ててしまいますのでご注意ください。

- 5) マスタイメージ作成、またはマスタイメージ更新を再度実施してください。

[サーバグループへのサーバ追加、またはマスタイメージ配付中だった場合]

- 1) 管理対象サーバノードの画面上に以下のメッセージが表示されている場合は、[ESC]→[Y]を押して電源をOFFにしてください。

```
Error has occurred!!
Press ESC key to stop Agent. Then turn off this computer and retry your
deployment task or investigate the error log.
```

・
・
・



```
ESC key was pressed. Agent is stopping.
Please wait a moment...
Would you like to turn off this computer? [Y/N]
```

- 2) 管理対象サーバノードがサーバグループに追加されている場合、サーバグループから削除してください。
- 3) 管理対象サーバノードをサーバグループに追加してください。

[バックアップイメージ作成中だった場合]

- 1) バックアップイメージ作成元の管理対象サーバノードが起動しているか確認し、停止している場合は起動してください。
- 2) バックアップイメージを再度作成してください。

[バックアップイメージ復元中だった場合]

- 1) バックアップイメージ復元先の管理対象サーバノードの電源がONになっているか確認し、電源OFFの場合は電源をONしてください。

【注意点】

バックアップイメージの復元に失敗しているため、電源ONを行ってもOSが起動しない場合があります。この場合でもそのまま次の手順に進んでください。

- 2) バックアップイメージを再度復元してください。

【注意点】

GUIのイベントログに「FJSVrcx:INFO:21114:master:image progress 5%。」のメッセージが出力された後、10分程度経過しても「FJSVrcx:INFO:21114」のメッセージが出力されない場合は、リセットか、電源の入れ直しを行ってください。

2.5.7 バックアップイメージ復元時に「FJSVrcx:ERROR:68297」メッセージが出力される。

2.5.7.1 FJSVrcx:ERROR:68297:power control error:(info) の場合

現象

GUIのイベントログに以下のエラーメッセージが出力される。

バックアップイメージ復元の場合

```
FJSVrcx:ERROR:68297:power control error:(rcxsoftdeploy:request:
<IPアドレス>, deploy(32:/opt/FJSVrcxmr/sys/rcxsrvctl(14),<サーバ名>:
Remote command abnormal end. ))
```

対処

バックアップイメージ復元先の管理対象サーバノードの電源がONになっている場合は、バックアップイメージの復元を再実行してください。

2.6 管理ソフトウェア (ServerView) に関するトラブル

管理ソフトウェア (ServerView) に関するトラブルの対処方法について説明します。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.6.1	GUIからServerViewの画面を表示できない。	L/W	L/W	L/W
2.6.2	管理対象サーバノードの状態が“error”または“warning”になったが、管理ソフトウェア (ServerView) では正常となっている。	L/W	L/W	L/W

2.6.1 GUIからServerViewの画面を表示できない。

現象

GUIからServerViewの画面を表示できない。

対処

下記の確認をしてください。

- 1) ServerView Agent

【Linux】

下記のコマンドで管理対象サーバノードにServerView Agentがインストールされていることを確認してください。

```
# rpm -q srvmagt-eeed
# rpm -q srvmagt-agents
```

「インストールされていません」というメッセージが出力された場合、本原因と判断できます。インストール方法については「ServerView ユーザーズガイド」を参照ください。

【Windows】

[スタート]-[コントロールパネル]-<プログラムの追加と削除画面>から ServerView Agent がインストールされているか確認してください。

“ServerView Agent ”が画面に表示されていない場合、本原因と判断できます。インストール方法については「ServerView ユーザーズガイド」を参照ください。

- 2) ServerView S2

下記のコマンドでドメイン管理サーバに ServerView S2 がインストールされていることを確認してください。

```
# rpm -q ServerView_S2
```

「インストールされていません」というメッセージが出力された場合、本原因と判断できます。インストール方法については「ServerView ユーザーズガイド」を参照ください。

3) httpd

ドメイン管理サーバ上で以下のコマンドを実行し、httpd が動作しているか確認して下さい。
動作していない場合、本原因と判断できます。

```
# /etc/init.d/httpd status
```

動作していない場合は下記のコマンドを使用してhttpdを起動させます。

```
# /etc/init.d/httpd start
```

システム起動時にhttpdを起動させるには下記コマンドを実行してください。

```
# chkconfig httpd on
```

4) Webブラウザの設定

Webブラウザで、下記アドレスにアクセスしてください。

うまく表示できない場合は、WebブラウザのPROXY設定やネットワーク設定を見直してください。

【Linuxの場合】

http://<ドメイン管理サーバのIPアドレス>/ServerView/serverview.html?IPAddress=<管理対象サーバノードのIPアドレス>&ServerName=<管理対象サーバノード名>&Community=<コミュニティ名>

【Windowsの場合】

http://<ドメイン管理サーバのIPアドレス>:3169/ServerView/serverview.html?IPAddress=<管理対象サーバノードのIPアドレス>&ServerName=<管理対象サーバノード名>&Community=<コミュニティ名>

例) # mozilla

http://192.168.0.231/ServerView/serverview.html?IPAddress=192.168.0.234&ServerName=tx200&Community=public

2.6.2 管理対象サーバノードの状態が“error”または“warning”になったが、管理ソフトウェア (ServerView) では正常となっている。

現象

管理対象サーバノードの状態が“error”または“warning”になったが、管理ソフトウェア (ServerView) では正常となっている。

対処

管理対象サーバノードの状態が“error”または“warning”になったため、管理ソフトウェア (ServerView) を呼び出したが、管理ソフトウェアの画面では正常となることがあります。

これは、サーバ管理装置が管理対象サーバノードのエラーや警告を記録しているが、管理ソフトウェア (ServerView) は正常と判断している場合に発生します。

下記の方法でサーバ管理装置から管理対象サーバノードの情報を採取して、当社技術員に連絡してください。

- マネジメントブレードの場合
マネジメントブレードにWebブラウザで接続して、下記の情報から異常がないか確認してください。
 - “Server Blade” の当該サーバの情報
 - “System Property” の “System Event Log”
- RSBの場合
RSBにWebブラウザで接続して、下記の情報から異常がないか確認してください。
 - “System Board” と “Power Supply”
 - “Recovery” の “Error Message Buffer”

原因などが分かっており、早期に管理対象サーバノードの状態を正常 “normal” に戻したい場合は、下記の方法を実施してください。

- マネジメントブレードの場合
マネジメントブレードにWebブラウザで接続して、下記を実施してください。
 - “System Property” の “System Event Log” で、“Clear All Entries” を実施。
- RSBの場合
RSBにWebブラウザで接続して、下記を実施してください。
 - “Recovery” の “Error Message Buffer” で、“Clear All Entries” を実施。

2.7 性能管理機能に関するトラブル

性能管理機能を使用する際に発生するトラブルの対象方法です。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.7.1	“装置 xxx の登録が完了しませんでした。”というメッセージが出力され、性能管理ウィンドウに装置を登録できない。	共通	-	-
2.7.2	“装置 xxx.xxx.xxx.xxx は性能監視機能をサポートしていません。”というメッセージが出力され、性能管理ウィンドウに装置を登録できない。	共通	-	-
2.7.3	性能グラフを表示できない。	共通	-	-
2.7.4	性能監視がリカバリ状態から回復しない。	共通	-	-
2.7.5	Systemwalker Service Quality Coordinatorにて性能情報を表示できない。	共通	-	-

2.7.1 “装置 xxx の登録が完了しませんでした。”というメッセージが出力され、性能管理ウィンドウに装置を登録できない。

現象

物理リソース管理画面のドメインビューより、登録対象装置のアイコンを性能管理ウィンドウへDrag & Dropして、性能管理ウィンドウへ装置登録を行った際に、メッセージswsag0609「装置 xxx の登録が完了しませんでした。」を表示した。

対処

以下のマニュアルを参照し、装置の構成情報を取得してください。

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編」

「第7章 運用（ストレージ性能編）」

「7.2.11 構成情報の更新」

2.7.2 “装置 xxx.xxx.xxx.xxx は性能監視機能をサポートしていません。”というメッセージが出力され、性能管理ウィンドウに装置を登録できない。

現象

物理リソース管理画面のドメインビューより、登録対象装置のアイコンを性能管理ウィンドウへDrag & Dropして、性能管理ウィンドウへ装置登録を行った際に、メッセージswsag0677「装置 xxx.xxx.xxx.xxx は性能監視機能をサポートしていません。」を表示した。

対処

性能管理機能では、以下の装置機種はサポートしていません。装置機種を確認してください。

- ETERNUS GR700
- ETERNUS GR710
- ETERNUS 3000 M50

2.7.3 性能グラフを表示できない。

現象

性能監視を行った日付の性能グラフを表示しない。

対処

以下のいずれかの対処を実施してください。

1) 性能管理機能では、性能情報保存期間を過ぎると自動的に性能情報を削除する機能を設けています。したがって、グラフ表示を指定した日付の性能情報が、この機能によって削除された可能性があります。

以下の手順にしたがって、性能情報保存期間を確認してください。

1-1) サイト管理サーバ上で以下のディレクトリ配下にある、性能管理詳細設定ファイル perf.conf を参照してください。

【Linux/Solarisの場合】

/etc/opt/FJSVssmgr/current/

【Windowsの場合】

サイトマネージャインストールディレクトリ¥Site Manager¥etc¥opt¥FJSVssmgr¥current¥

1-2) パラメータ PERF_DATA_KEEP_DAYS の値を確認してください。

[PERF_DATA_KEEP_DAYS = xx の場合]

性能データはxx日間保存し、それを過ぎると自動的に性能情報を削除します。

たとえば、xx=10の場合

1/1に採取した性能データは、1/1～1/11まで保持し、1/12に自動的に削除します。

[PERF_DATA_KEEP_DAYS = 0 の場合]

性能データは無期限に保存されます。

※ PERF_DATA_KEEP_DAYSのデフォルト値は「7」となっています。

【注意事項】

性能情報保存期間を変更する場合は、以下の事項に注意をして設定してください。

- パラメータPERF_DATA_KEEP_DAYSの値は、保存日数を示します。0を設定した場合は、無期限保存になるため、定期的にメモリまたはディスク容量を確認してください。
- メモリまたはディスク容量が不足した場合、運用が停止する可能性があります。空き容量を確認後、設定してください。
- 他のパラメータなどの削除は絶対にしないでください。性能管理機能が正常に運用しない可能性があります。
- 設定ファイルの内容は4時間に1回参照され、自動的に本製品に反映されます。または、サイト管理サーバ上でサイトマネージャを再起動してください。

2) 複数の運用管理サーバから1台の装置に対して、同時に性能監視を実施している可能性があります。対象となる運用管理サーバは、Softek Storage CruiserおよびETERNUS SF Storage Cruiser、Systemwalker Resource Coordinatorの運用管理サーバも対象となります。複数の運用管理サーバから1台の装置に対して、同時に性能監視を実施していないことを確認してください。

3) 性能監視処理に新しい装置構成を反映できていないため、性能情報を表示できない可能性があります。

以下のマニュアルを参照し、装置の構成情報を取得してください。

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編」
「第7章 運用（ストレージ性能編）」

2.7.4 性能監視がリカバリ状態から回復しない。

現象

性能管理がリカバリ状態から回復しない。

※リカバリ状態とはリソース管理画面の装置アイコン右上のPマークが黄色になっている状態です。

対処

以下のいずれかの対処を実施してください。

- ETERNUS8000/6000/4000 (M80, 100除く)
ETERNUSmgrにログインしている場合は、ログアウトしてください。
- LANトラフィックの状況あるいはサブネット越え(性能監視対象装置とサイト管理サーバ間がゲートウェイをまたぐ)などの状況では、設定した監視間隔内で性能情報を取得できない場合があります。性能情報の取得状況に応じて、監視間隔を設定してください。

2.7.5 Systemwalker Service Quality Coordinatorにて性能情報を表示できない。

現象

本製品のリソース管理画面より性能監視を開始したが、Systemwalker Service Quality Coordinatorにて性能情報を表示できない。

対処

性能管理ウィンドウにて性能情報を表示できるか確認してください。性能管理ウィンドウにて性能情報を表示できる場合は、Systemwalker Service Quality Coordinatorでの設定を確認ください。性能管理ウィンドウにて性能情報を表示できない場合は、2.7.1 ~ 2.7.4から原因に応じた対処を実施してください。

2.8 調査資料採取コマンドに関するトラブル

調査資料採取コマンドの実行時に発生するトラブルの対処方法について説明します。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.8.1	rcxmgrsnap/rcxagtsnap コマンドを実行中のサーバに対して rcxtssnap を実行すると多重実行エラーとなる。	共通	—	—
2.8.2	Windowsの管理対象サーバ上で、調査資料格納先としてドライブのみ（"c:"等）を指定してrcxagtsnapコマンドを実行すると、調査資料が採取されない。	—	—	W

2.8.1 rcxmgrsnap/rcxagtsnapコマンドを実行中のサーバに対してrcxtssnapコマンドを実行すると多重実行エラーとなる。

現象

rcxmgrsnap/rcxagtsnapコマンドを実行中のサーバに対してrcxtssnapコマンドを実行すると多重実行エラーとなり、そのサーバの資料採取に失敗する。

対処

以下のメッセージが採取先ディレクトリの<サーバ名>_error.txtに記述されている場合は、該当するサーバにおいて、すでにrcxmgrsnapコマンドまたはrcxagtsnapコマンドによる調査資料の処理処理が動作中の可能性があります。

```
FJSVrcx:ERROR:67244:rcxmgrsnap:other command is running  
または、  
FJSVrcx:ERROR:67244:rcxagtsnap:other command is running
```

上記に該当する場合、rcxmgrsnapコマンドまたはrcxagtsnapコマンドが実行されていないことを確認してからrcxtssnapコマンドを再実行してください。

2.8.2 Windowsの管理対象サーバ上で、調査資料格納先としてドライブのみ（"c:"等）を指定してrcxagtsnapコマンドを実行すると、調査資料が採取されない。

現象

サーバ追加(Windows OS)を実施すると、以下のエラーメッセージが出力して処理に失敗することがあります

イメージ操作用モジュール（クライアントエージェント）がルートフォルダ直下にインストールされた場合に、個別設定処理中にエージェントが実行するスクリプトの一部が誤作動することが、本現象

の直接原因でした。

現象

Windowsの管理対象サーバ上で、調査資料格納先としてドライブのみ（"c:"等）を指定してrcxagtsnapコマンドを実行すると、調査資料が採取されない。

対処

調査資料格納先にドライブのみ（"c:"等）以外のパスを指定してrcxagtsnapコマンドを再実行してください。

採取先をドライブ直下とする場合は、以下のように指定してください。

例) 採取先をcドライブ直下とする場合

```
> (インストールディレクトリ)¥Agent¥sbin¥rcxagtsnap -dir c:¥ <RETURN>
```

2.9 リモートコンソールマネージャに関するトラブル

対象製品 : Solaris

リモートコンソールマネージャに関するトラブルの対処方法については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド リモートコンソールマネージャ編」の「付録D トラブルシューティング」を参照してください。

2.10 仮想ボリューム管理機能に関するトラブル

対象製品 : Solaris

仮想ボリューム管理機能に関するトラブルの対処方法については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド 仮想ボリューム管理編」の「付録F トラブルシューティング」を参照してください。

仮想ボリューム管理機能のGUI(Web-Based Admin View)に関するトラブルの対処方法については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド Web-Based Admin View編」の「付録B トラブルシューティング」を参照してください。

2.11 部品のGUI表示に関するトラブル

部品のGUI表示に関するトラブルの対処方法について説明します。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.11.1	サーバリソース管理画面に部品が表示されない。	L/W	L/W	L/W

2.11.1 サーバリソース管理画面に部品が表示されない。

現象

ブレードサーバで管理対象サーバノードを運用している場合に、あるシャーン内の全ての管理対象サーバノード(サーバブレード)のサーバリソース管理画面において、部品が全く表示されないことがある。



対処

マネジメントブレードが、本現象の発生したシャーン内のいずれかの管理対象サーバノード(サーバブレード)に搭載されているMACアドレスを認識できなかった可能性があります。対象ブレードサーバのマネジメントブレードのWeb UI(ウェブユーザインタフェース)から、全てのサーバブレードの状態を確認し、全てのサーバブレードにおいてMACアドレスが認識されているかを確認してください。

MACアドレスが認識されていないサーバブレードが存在した場合は、以下の確認を実施してください。

- 1) シャーンにサーバブレードが挿入された状態で十分(2分程度)時間が経過しているかどうか

確認してください。

- 2) シャーシに電源が投入されて十分(3-4分程度)時間が経過しているかどうか確認してください。
- 3) マネジメントブレードがリブートしている場合は、マネジメントブレードが起動して十分(2分程度)時間が経過しているかどうか確認してください。
- 4) 上記いずれも十分な場合は、サーバブレードを同スロット、又は別のスロットに再度挿入しなおし、十分(2分程度)時間が経過するのを待ってから再度 MAC アドレスを確認してください。

2.12 クライアント（GUI）画面表示機能に関するトラブル

クライアント（GUI）表示機能を使用する際に発生するトラブルの対処方法について説明します。

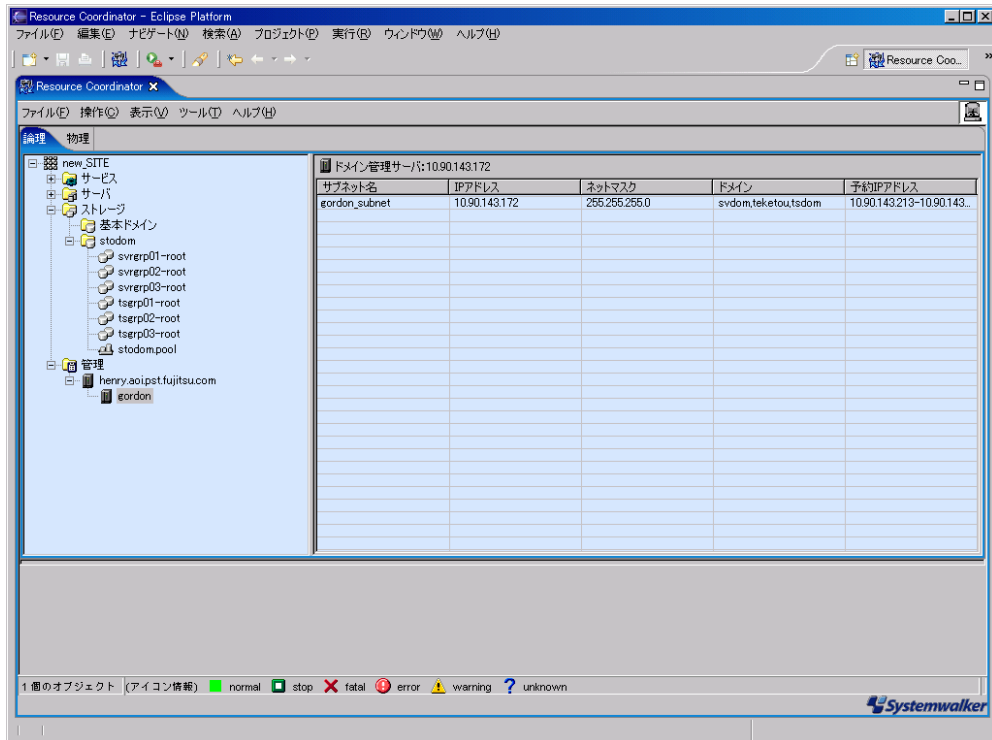
■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.12.1	クライアント(GUI)画面を最小化状態から元のサイズに戻す操作を行った時、または、ログイン後の画面が表示された時にクライアント(GUI)画面内のイベントログ情報が表示されない。	-	-	-
2.12.2	マルチディスプレイモードが設定可能なPCで設定をONにした状態でクライアント(GUI)を表示させた時、クライアント(GUI)画面が正常に描画されないことがある。	-	-	-

2.12.1 クライアント（GUI）画面を最小化状態から元のサイズに戻す操作を行った時、または、ログイン後の画面が表示された時にクライアント（GUI）画面内のイベントログ情報が表示されない。

現象

クライアント（GUI）画面を最小化状態から元のサイズに戻す操作を行った時、または、ログイン後の画面が表示された時、以下の画面が表示されシステムログ情報が表示されない。



対処

以下の手順で対処してください。

- 1) クライアント（GUI）画面のウィンドウサイズを変更してください。

2.12.2 マルチディスプレイモードが設定可能なPCで設定をONにした状態でクライアント（GUI）を表示させた時、クライアント（GUI）画面が正常に描画されないことがある。

現象

マルチディスプレイ表示モードが設定されているPCでクライアント（GUI）を表示させると正常に描画されないことがある。

対処

以下の手順で対処してください。

- 1) クライアント（GUI）を終了してください。
- 2) マルチディスプレイ表示モードの設定をOFFに変更してください。
(設定の変更手順に関してはお使いのPCのマニュアルを参照してください。)
- 3) クライアント（GUI）を起動してください。

2.13 自動リカバリに関するトラブル

自動リカバリ機能を使用する際に発生するトラブルの対処方法について説明します。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
2.13.1	代替可能な管理対象サーバノードが存在している状態で自動リカバリの切替えを実行したが、代替サーバが存在しないことを示すメッセージが出力され、切替えに失敗する。	L	L	-

2.13.1 代替可能な管理対象サーバノードが存在している状態で自動リカバリの切替えを実行したが、代替サーバが存在しないことを示すメッセージが出力され、切替えに失敗する。

現象

代替可能な管理対象サーバノードがサーバプールグループに存在している状態で自動リカバリの切替えを実施したが、以下のエラーメッセージが出力されて切替えに失敗する。

```
FJSVrcx:ERROR:67220:command:spare server node not found in pool group
```

対処

サーバプール管理OSにインストールされているServerView Linux エージェントが代替サーバの機種をサポートしていないことが原因で発生している可能性があります。

構築サーバにインストールしたServerViewに添付のreadmeファイルを参照し、代替サーバが対象機種となっているか確認してください。

代替サーバが対象機種ではない場合、代替サーバを対象機種とするServerViewを入手し、以下の手順でサーバプール管理OSを再作成してください。

- ① 登録されているすべての管理対象サーバノードを削除します。
- ② ドメイン管理サーバでrcxpoolosing deleteを実行します。
/opt/FJSVrcxdm/sbin/rcxpoolosing delete
- ③ 「Systemwalker Resource Coordinator インストールガイド」の「4.3.2 構築サーバへのソフトウェアのインストール」から「4.3.3 OS イメージのドメイン管理サーバへの転送」までの手順を実施します。
- ④ ①で削除した管理対象サーバノードを登録します。

サーバプール管理OSを共有化する場合は、サーバプロビジョニング機能を利用するすべての管理対象サーバノードの機種をサポートしているServerView Linux エージェントをインストールする必要がありますので注意してください。

第3章 増設時のトラブル

本章では、リソースコーディネータの増設時に発生するトラブルの対処方法について説明します。

3.1 管理対象サーバノードの登録に関するトラブル

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
3.1.1	管理対象サーバノードの登録に失敗する	W	W	W

3.1.1 管理対象サーバノードの登録に失敗する

現象

DHCPのIPアドレス範囲に空きIPアドレスが存在するにも関わらず、下記のメッセージが出力され、管理対象サーバノードの登録に失敗した。

```
FJSVrcx:ERROR:67999:rcxserver:internal error(rcxfunc=SystemRM,rcxerrno=5009)
```

なお、下記のメッセージが出力された場合は、DHCPのIPアドレス範囲に、空きIPアドレスが存在しません。DHCPのIPアドレス範囲を拡張した後、サーバ登録を行ってください。

```
FJSVrcx:ERROR:67226:rcxserver:no ip address left
```

対処

リソースコーディネータで設定したDHCPのIPアドレス範囲(管理LANのIPアドレス)に、XXX.YYY.ZZZ.0など、第4オクテッドが0になる値が含まれる場合、XXX.YYY.ZZZ.0のIPアドレスの割り当てに失敗した可能性があります。

以下の方法で、XXX.YYY.ZZZ.0 が未割り当てのIPアドレスかどうかを確認してください。

●確認方法

- 1) サイト管理サーバにログインします。
- 2) /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxlogin を実行し、特権管理者権限でログインします。
- 3) rcxinfoコマンドを実行し、DHCPサービスで管理するIPアドレス範囲を確認します。

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxinfo -type management -detail -verbose | grep "Subnet " <RETURN>
Subnet      dom_subnet      192.168.1.2      -      -      normal      dom
-           netmask=255.255.0.0,reserve=192.168.1.4-192.168.5.255
Subnet      dom2_subnet      192.170.1.2      -      -      normal      dom2
-           netmask=255.255.0.0,reserve=192.170.1.4-192.170.5.255
```

"reserve=" 以降、下線部分がDHCPのIPアドレス範囲です。

- 4) rcxinfoコマンドを実行し、登録されている管理対象サーバノードの一覧を表示し、使用中の管理LANのIPアドレスを確認します。

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxinfo -type server -detail -verbose | grep "Server " <RETURN>
Server      blade1      192.168.1.4      05000003      -      normal      RHEL4U2      -
```

```

mode=active,macaddr=00:11:22:33:44:55,ctrlip=192.168.1.4,snmp=public,model="PRIMERGY
BX620 S2 (D2050)",arch=ia32
Server blade2 192.168.1.5 05000004 - normal LOCAL.pool -
macaddr=00:11:22:33:44:56,ctrlip=192.168.1.4,snmp=public,model="PRIMERGY BX620 S2
(D2050)",arch=ia32

<中略>

Server bladeX 192.168.1.255 05000001 - stop group1 -
mode=active,macaddr=00:22:33:44:55:66,ctrlip=192.168.1.4,snmp=public,model="D2050
(D2050)",arch=ia32
Server bladeY 192.168.2.1 05000002 - normal SAN.pool -
macaddr=00:22:33:44:55:67,ctrlip=192.168.1.4,snmp=public,model="PRIMERGY BX620 S2
(D2050)",arch=ia32

```

“Server” から始まる各行の第3カラム(下線部)が、使用中の管理LANのIPアドレスです。

●対処

XXX.YYY.ZZZ.0が未割り当てのIPアドレスであった場合は、以下のいずれかの対処を行ってください。

1) DHCPのIPアドレス範囲の拡張を行う場合

DHCPのIPアドレス範囲の拡張後、サーバ登録を実施してください。

DHCPのIPアドレス範囲の拡張については、下記のマニュアルを参照してください。

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」

「8.2.4 DHCP の IP アドレス範囲の変更」

2) DHCPのIPアドレス範囲の拡張を行わない場合

2-1) 登録に失敗したサーバのみでなく、既存のサーバも再登録する場合

XXX.YYY.ZZZ.1以降のIPアドレスが割り当てられ、登録済の管理対象サーバノードのうちIPアドレスを変更したいサーバが存在する場合は、それらの管理対象サーバノードをリソースコーディネータから一旦削除してください。その後、MACアドレス指定のサーバ登録にて、管理LANのIPアドレスを指定して、削除したサーバの再登録、および、登録に失敗したサーバの登録を行ってください。

サーバの削除、登録については、下記のマニュアルを参照してください。

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」

「6.2 サーバグループからの管理対象サーバノードの削除」

「8.3.5 管理対象サーバノードの削除」

「5.2.8.1 サーバプロビジョニングを利用するサーバノード登録」

■サーバ登録 (MACアドレス指定)

2-2) 登録に失敗したサーバのみ登録する場合

既に登録済のサーバのIPアドレスを変更しない場合は、MACアドレス指定のサーバ登録にて、管理LANのIPアドレスにXXX.YYY.ZZZ.0を指定して、登録に失敗したサーバのみ、再度サーバ登録を行ってください。

サーバの登録については、下記のマニュアルを参照してください。

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」

「5.2.8.1 サーバプロビジョニングを利用するサーバノード登録」

■サーバ登録 (MACアドレス指定)

第4章 その他のトラブル

本章では、ハードウェアリソース障害に対する保守の方法、およびシステムダウンなどのトラブルが発生した場合の対処方法について説明します。

4.1 ハードウェアリソース障害に対する保守

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
4.1.1	サーバの保守	共通	共通	—
4.1.2	ストレージの保守	共通	—	—
4.1.3	ネットワークの保守	共通	共通	共通

4.1.1 サーバの保守

サーバにおける障害の特定と保守の方法は、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド サーバ管理編」の「第6章 問題発生時の対処手順」を参照してください。

4.1.2 ストレージの保守

ある装置で障害が発生すると、リソースコーディネータクライアントのイベントログに障害内容が表示されます。また、物理リソース管理画面の装置イベント（装置のプロパティ画面より）にも同じ内容が表示されます。さらに、障害が発生した装置アイコンが [異常] (赤色) または [警告] (黄色) に変更されます。

また、ストレージリソースマネージャ内で障害によって影響を受けるアクセスパスが特定できた場合は、そのアクセスパスの状態も [アクセスパス異常] (赤色) に変更されます。

画面の状態に従い、以下の「ストレージ、ライブラリ、ブリッジが [異常] / [警告] 状態である場合」から「部品交換後の物理リソース管理画面での対処」までの対処を行ってください。

■ ストレージ、ライブラリ、ブリッジが [異常] / [警告] 状態である場合

1. 物理リソース管理画面で、対象のストレージ、ライブラリ、ブリッジをダブルクリックし、各ビューに移動します。
2. 対象装置アイコンを右クリックし、[管理ソフト呼出し]（管理ソフト連携可能装置）を選択します。
3. ストレージ保守画面を起動します。
4. この画面からストレージの故障対象部を特定します。故障部品の交換は必要に応じ、当社技術員（CE）まで連絡してください。



CA（チャネルアダプタ）が故障した場合は、最新の情報に更新を実行するとストレージビューで

CA が[異常]表示されます (ETERNUS/GR だけ)。ライブラリ装置内のロボットやテープが故障した場合も同様に最新の情報に更新を実行するとロボットやテープが [異常] 表示されます (LT160 だけ)。

■ ファイバチャネルスイッチ/ハブが [異常]/[警告] 状態である場合

1. 物理リソース管理画面で、ファイバチャネルスイッチ/ハブをダブルクリックし、ファイバチャネルスイッチ/ハブビューに移動します。
対象ファイバチャネルスイッチ/ハブアイコンを右クリックし、[管理ソフト呼出し](管理ソフト連携可能装置) を選択します。
2. 装置の保守画面が起動します。
3. この画面からファイバチャネルスイッチの故障対象部を特定します。
4. 故障部品の交換は必要に応じ、当社技術員 (CE) まで連絡してください。



GBIC の故障などでポートが異常状態にある場合は、ファイバチャネルスイッチ/ハブビューでポートが [故障] として表示されます。この場合は、影響されるアクセスパスの状態が [アクセスパス異常] と表示されます。当該アクセスパスのプロパティを参照することにより影響する特殊ファイル名 (デバイスファイル名) を認識できます。

■ サーバノードが [異常]/[警告] 状態である場合

物理リソース管理画面のサーバノードビューより [アクセスパス異常] のアクセスパスの物理経路を確認します。

経路上に異常状態の装置が存在していない場合は、途中のファイバチャネルケーブルが切断されていないか確認してください。なお、原因が特定できない場合は当社技術員 (CE) までご連絡ください。

■ HBAが灰色表示される場合

物理リソース管理画面のサーバノードビューで、HBAが灰色で表示されている場合は、そのHBAが取りはずされた状態、または ハード異常によりHBAを認識できなくなった状態を表します。この場合、HBAのプロパティ画面では、監視状態が「通信不可」と表示されます。HBAの障害やHBA交換などの保守作業中にこのような灰色表示となります。障害要因を取り除き、保守作業が完了すれば、通常の緑色表示に戻ります。

なお、本来はこのような状況ではHBAの状態は特定できませんので、HBAの装置状態は「unknown」ですが、Linux版リソースコーディネータでは、HBAのプロパティ表示やリスト表示では、「error」と表示されます。Solaris版では正しく「unknown」と表示されます。保守が完了すれば装置状態は「normal」に戻ります。

■ HBA 交換手順

活性交換機能をサポートしていないサーバノードでは、以下の手順で HBA の交換を行います。

1. サーバノードをシャットダウンします。
2. HBA を交換します。
3. サーバノードを起動します。
4. ただし、ここではアクセスパスは復旧しません。これは、ストレージおよびファイバチャネルスイッチに前の HBA の情報を元にしたゾーニングが定義されているためです。
5. アクセスパスの継承 (セキュリティの再設定)
6. 物理リソース管理画面の [操作]-[アクセスパス]-[継承]-[追加] を選択して、アクセスパス

継承を実行します。

新しい HBA 情報を元に、前のアクセスパス同等にアクセスできるようなゾーニング設定をストレージおよびファイバチャネルスイッチに定義します。

7. サーバノードを再起動します。

活性交換機能をサポートしているサーバノードでは、HBA を交換し、物理リソース管理画面よりアクセスパス継承を実行するだけで、継続運用可能です。サーバノードのシャットダウンの必要はありません。活性交換方法は装置のマニュアルを参照してください。

HBAの交換手順の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド ストレージ管理編」

「第6章 運用（ストレージ管理編）」

「6.3 アクセスパス管理」

「6.3.5 アクセスパスの継承」

■ 部品交換後の物理リソース管理画面での対処

1. 物理リソース管理画面の [表示]-[最新の情報に更新] を選択して、現在の装置状態を確保してください。
2. 交換により装置状態が復旧した場合は、装置の状態表示が正常状態に戻ります。



- LT120/130、NR1000 および手動組み込みウィンドウで編集した装置状態は、手動組み込みウィンドウで装置アイコンを右クリックし、ポップアップメニューから装置情報編集を選択して、手動で装置状態を正常に戻してください。
- サーバノードの HBA（ホストバスアダプタ）、マルチパス以外のミドルウェアの障害は、イベント通知だけです。ミドルウェアの障害の対処は各ミドルウェアのマニュアルを参照してください。

4.1.3 ネットワークの保守

4.1.3.1 プロビジョニング機能を使用している場合

ネットワークの保守には以下の項目があります。

- サーバ NIC の障害
- ケーブル障害
- スイッチングハブの障害
- ロードバランサの障害
- ロードバランサの電源断または再起動
- ファイアウォール、ルータの障害

以下にそれぞれの保守手順について説明します。

■ サーバ NIC の障害

障害原因がサーバに実装されている NIC 障害の場合、以下の手順により NIC の交換を行います。

1. NIC 交換を行うサーバの通信を停止し、いったんサーバを削除します。
2. サーバの削除方法については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「8.8.3 管理対象サーバノードの削除」を参照してください。
3. サーバの電源を落とし、該当 NIC の交換を行います。
4. 交換した NIC とスイッチングハブを LAN ケーブルで接続します。
5. 該当のサーバをサーバグループに登録します。
6. 登録方法については、「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「5.2.8 基本ドメインへのサーバノードの登録」および、「5.2.15 管理対象サーバノードの追加」を参照してください。



サーバプロビジョニング機能では、DR (Dynamic Reconfiguration) や PHP (PCI Hot Plug) を利用した NIC の活性交換はできません。

■ ケーブル障害

障害原因がサーバ NIC とスイッチングハブに接続されているケーブル障害の場合には、以下の手順でケーブルの交換を行います。

1. ケーブル交換を行う対象サーバの通信を停止します。LAN を二重化している場合には、GLS によって自動的に該当のケーブルを使用しないよう切替え制御が行われるため、通信を停止する必要はありません。
2. 該当ケーブルの交換を行います。
3. サーバの通信を再開します。LAN を二重化している場合には、GLS によって自動的に通信に再使用（高速切替方式の場合）されるか、または待機状態へ移行（NIC 切替方式の場合）します。

■ スイッチングハブの障害

障害原因がスイッチングハブの障害の場合には、以下の手順でスイッチングハブの交換を行います。

[サイト管理サーバがLinuxの場合]

・サーバグループ間接続を行っている場合

1. 交換を行うスイッチングハブに接続されているサーバの通信をすべて停止します。LAN を二重化している場合には、GLS によって自動的に該当のスイッチングハブを使用しないよう切替え制御が行われるため、通信を停止する必要はありません。
2. 該当のスイッチングハブの電源を落とし、交換作業を行います。
3. 環境構築時にセーブしたスイッチングハブの設定情報を、交換後のスイッチングハブへリストアします。
4. サイト管理サーバ上で以下のコマンドを実行し、スイッチングハブの再設定を行います。
 <例>スイッチングハブの管理 IP アドレスが「192.168.90.1」の場合

```
# /opt/FJSVnrcp/bin/rcxnetswitch reset -ipaddr 192.168.90.1 <RETURN>
```

なお、冗長化構成の場合には、交換後、15 秒（NIC 切替方式の場合）または 5 秒（高速切替方式の場合）間隔を空けてから実行してください。また、本コマンド実行前は、管理 LAN、および管理対象サーバノードの LAN だけスイッチングハブと接続し、カスケード接続や、非管理のスイッチングハブやルータなどは、本コマンド実行後に接続してください。

5. サーバの通信を再開します。LAN を二重化している場合には、復旧したスイッチングハブは GLS によって自動的に認識され、通信に再使用される（高速切替方式の場合）か、または待機状態へ移行（NIC 切替方式の場合）します。

- ・サーバグループ間接続を行っていない場合

該当のスイッチングハブの電源を落とし、交換作業を行います。

交換後には、交換前と同様の設定を行ってください。

付録Iを参照してLAN冗長化を行っている場合には、交換後に以下の章で行った設定を再度実施してください。

[エージェントがLinuxの場合]

「I.1.2.1 スwitchングハブ、およびスイッチブレードへの VLAN 設定」

[エージェントがWindowsの場合]

「I.2.2.1 スwitchングハブ、およびスイッチブレードへの VLAN 設定」

[サイト管理サーバがWindowsの場合]

該当のスイッチングハブの電源を落とし、交換作業を行います。交換後には、交換前と同様の設定を行ってください。付録Iを参照してLAN冗長化を行っている場合には、交換後に以下の章で行った設定を再度実施してください。

「F.1.2.1 スwitchングハブ、およびスイッチブレードへのVLAN設定」

[サイト管理サーバがSolarisの場合]

該当のスイッチングハブの電源を落とし、交換作業を行います。交換後には、交換前と同様の設定を行ってください。

■ ロードバランサの障害

障害原因がロードバランサの障害の場合には、以下の手順でロードバランサの交換を行います。

1. ロードバランサの交換を行います。
2. 交換完了後、サイト管理サーバで以下のコマンドを実行し、ロードバランサの再設定を行います。

<例>ロードバランサの管理 IP アドレスが「192.168.90.1」の場合

```
# /opt/FJSVnrpc/bin/rcxnetssl reset -ipaddr 192.168.90.1 <RETURN>
```

ロードバランサが二重化構成の場合には、上記コマンドの実行は必要ありません。ただし、両系同時に電源の切断や再起動を行う場合には、上記コマンドの実行が必要です。

■ ロードバランサの電源断または再起動

ロードバランサの電源断または再起動を行った場合は、以下の手順でロードバランサの再設定を行います。

1. ロードバランサの電源再投入、または再起動を行います。
2. サイト管理サーバ上で以下のコマンドを実行し、ロードバランサの再設定を行います。

<例>ロードバランサの管理 IP アドレスが「192.168.90.1」の場合

```
# /opt/FJSVnrpc/bin/rcxnetssl reset -ipaddr 192.168.90.1 <RETURN>
```

ロードバランサが二重化構成の場合には、上記コマンドの実行は必要ありません。ただし、両系同時に電源の切断や再起動を行う場合には、上記コマンドの実行が必要です。

■ ファイアウォール、ルータの障害

障害原因が、ファイアウォール、ルータの障害の場合には、以下の手順でファイアウォール、ルータの交換を行います。

1. 障害が発生したファイアウォール、ルータを経由するサーバの通信をすべて停止します。
2. 障害が発生したファイアウォール、ルータの電源断を行い、交換を行います。
3. ファイアウォール、ルータの交換完了後、サーバの通信を再開します。

4.1.3.2 ネットワーク監視機能を使用している場合

以下の手順でネットワーク障害の特定と保守を行います。

事例：管理対象サーバノードの業務LANでエラーが発生した場合

[手順]

1. rcxevtinfo コマンドを使用してイベントログを表示します。

```
# /opt/FJSVrcxmr/sbin/rcxevtinfo
WARNING 2005/03/04 12:10:54 -          RCX    41104
FJSVrcx:WARNING:41104:failed to get the service information from iwase
WARNING 2005/03/04 13:12:29 iwase     SSC    -      Connection Timeout
WARNING 2005/03/04 13:13:37 iwase     SSC    -      Connection Timeout
WARNING 2005/03/04 13:14:00 -          RCX    41104
FJSVrcx:WARNING:41104:failed to get the service information from iwase
INFO    2005/03/04 13:14:05 iwase     SSC    -      Unit status changed: OK
WARNING 2005/03/04 13:14:41 iwase     NRM    -      Mar  4 13:12:49 iwase
FJSVnetsr: [ID 702911 daemon.warning] FJSVnetsr:WARNING:44501:no response
detected on tcp connection. [if=eri0,Event-ID=50000]
```

2. 検出元が“NRM”と表示されているイベントを確認し、Event-IDの番号を控えます。
3. イベントが発生した管理対象サーバノードへログインします。
4. 2. で控えた Event-ID（上記例では、50000）を引数として、tcpinfo コマンドを実行し、“Potential Faulty Area”に表示されている内容から、障害発生箇所の推定結果を確認します。以下の出力例では、“notlocal（伝送路(隣接含まない)）”でネットワーク障害が発生している可能性が最も高く、以下、remote（相手システム(伝送路含む)）、local（伝送路(隣接含む)）の順で、障害が発生している可能性が高いことを示しています。

```
# /opt/FJSVnetsr/sbin/rcxnetmon tcpinfo -i 50000
***** Detection Event *****
2005-03-04 13:12:19 -- 2005-03-04 13:12:49

Mar 04 13:12:49 WARNING:44501:no response detected on tcp connection.
[if=eri0,Event-ID=50000]

***** Potential Faulty Area *****
              count      own    local notlocal  remote
active_connection      15
no_receive              3      -      L      H      M
performance_down(send)  0      -      -      -      -
performance_down(recv)  0      -      -      -      -
delayed_connect(local)  0      -      -      -      -
delayed_connect(remote) 0      -      -      -      -
                                (H:High M:Middle L:Low)

***** Local Interface *****
Name    = eri0
```

tcp connection information:

```
-----  
active_count           =          26  response_ave_time(local) =    --  
establish_count       =           4  response_ave_time(remote) = 135.7ms  
disconnect_count      =           2  
no_receive_count      =           3  
performance_down_count  
(send)                =           0  
performance_down_count  
(receive)             =           0  
delayed_connect_count  
(local)               =           0  
delayed_connect_count  
(remote)              =           0
```

send information:

receive information:

```
-----  
all_count              =        21706  all_count              =        8724  
all_size               =       30461838  all_size               =       353086  
tcp_count              =        21704  tcp_count              =        8716  
tcp_size               =       29593522  tcp_size               =        3819  
tcp_count(retrans)     =           13  tcp_count(dup)         =           0  
tcp_size(retrans)     =        14773  tcp_size(dup)          =           0  
                        tcp_count(lost) =           1  
                        tcp_size(lost)  =        1460  
tcp_syn_count          =           0  tcp_syn_count          =           4  
tcp_syn_count(retrans) =           0  tcp_syn_count(dup)     =           0  
tcp_synack_count       =           4  tcp_synack_count       =           0  
tcp_fin_count          =           2  tcp_fin_count          =           2  
tcp_fin_count(retrans) =           0  tcp_fin_count(dup)     =           0  
tcp_rst_count          =           2  tcp_rst_count          =           3  
icmp_count             =           0  icmp_count             =           0  
                        icmp_count(unreach) =           0  
                        icmp_count(src_quench) =           0  
                        icmp_count(redirect) =           0  
                        icmp_count(time_exceed) =           0  
arp_count              =           1  arp_count              =           3  
broadcast_frame_count =           2  broadcast_frame_count =           7
```

***** Network IP address *****

Local Address = 192.13.70.113

Remote Address = 192.13.70.36

tcp connection information:

```
-----  
active_count           =          10  response_ave_time(local) =    --  
establish_count       =           0  response_ave_time(remote) = 145.7ms  
disconnect_count      =           0  
no_receive_count      =           2  
performance_down_count  
(send)                =           0  
performance_down_count  
(receive)             =           0  
delayed_connect_count  
(local)               =           0  
delayed_connect_count  
(remote)              =           0
```

send information:		receive information:	
tcp_count	= 7371	tcp_count	= 2507
tcp_size	= 10065292	tcp_size	= 0
tcp_count(retrans)	= 5	tcp_count(dup)	= 0
tcp_size(retrans)	= 7300	tcp_size(dup)	= 0
		tcp_count(lost)	= 0
		tcp_size(lost)	= 0
tcp_syn_count	= 0	tcp_syn_count	= 0
tcp_syn_count(retrans)	= 0	tcp_syn_count(dup)	= 0
tcp_synack_count	= 0	tcp_synack_count	= 0
tcp_fin_count	= 0	tcp_fin_count	= 0
tcp_fin_count(retrans)	= 0	tcp_fin_count(dup)	= 0
tcp_rst_count	= 0	tcp_rst_count	= 0
Local Address = 192.13.70.113			
Remote Address = 192.13.70.30			
tcp connection information:			
active_count	= 14	response_ave_time(local)	= --
establish_count	= 3	response_ave_time(remote)	= 130.6ms
disconnect_count	= 2		
no_receive_count	= 1		
performance_down_count(send)	= 0		
performance_down_count(receive)	= 0		
delayed_connect_count(local)	= 0		
delayed_connect_count(remote)	= 0		
send information:		receive information:	
tcp_count	= 14323	tcp_count	= 6201
tcp_size	= 19528130	tcp_size	= 3757
tcp_count(retrans)	= 7	tcp_count(dup)	= 0
tcp_size(retrans)	= 7458	tcp_size(dup)	= 0
		tcp_count(lost)	= 1
		tcp_size(lost)	= 1460
tcp_syn_count	= 0	tcp_syn_count	= 3
tcp_syn_count(retrans)	= 0	tcp_syn_count(dup)	= 0
tcp_synack_count	= 3	tcp_synack_count	= 0
tcp_fin_count	= 2	tcp_fin_count	= 2
tcp_fin_count(retrans)	= 0	tcp_fin_count(dup)	= 0
tcp_rst_count	= 2	tcp_rst_count	= 3

5. 推定結果を元に、該当のネットワーク機器を調査して原因を究明し、保守を行います。

4.2 サイト管理サーバのシステムダウン、またはフェイルオーバー発生時のリカバリ

サイト管理サーバにおいて、システムダウンやフェイルオーバーが発生した場合のリカバリ手順について説明します。

■トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
4.2.1	管理対象サーバノードの登録中に発生した場合	共通	-	-
4.2.2	管理対象サーバノードの追加中に発生した場合	共通	-	-
4.2.3	イメージの作成中または更新中に発生した場合	L/W	-	-
4.2.4	イメージの配布中に発生した場合	L/W	-	-
4.2.5	管理対象サーバノードの削除中に発生した場合	共通	-	-

4.2.1 管理対象サーバノードの登録中に発生した場合

現象

管理対象サーバノードの登録時にサイト管理サーバのダウン、またはフェイルオーバーが発生した。

対処

以下の手順で復旧してください。

サイト管理サーバのシステムダウン発生時は、サイト管理サーバが起動されていることを確認してから復旧作業を行ってください。

- 1) リソースコーディネータのGUIよりサーバの状態を確認してください。
 - ・ 管理対象サーバノードのステータスが" normal" の場合
対処は不要ですので、これ以降の処理は実施する必要はありません。
 - ・ 管理対象サーバノードのステータスが" unknown" の場合
サーバ登録処理が正しく完了していない可能性があります。2)以降の対処を実施してください。
- 2) 管理対象サーバノードをリソースコーディネータより削除してください。
- 3) 管理対象サーバノードの電源状態を確認し、電源がONの場合は電源をOFFにしてください。
- 4) 管理対象サーバノードの登録を再実行してください。

4.2.2 管理対象サーバノードの追加中に発生した場合

現象

サーバグループへの管理対象サーバノードの追加時に、サイト管理サーバがダウン、またはフェイルオーバーが発生した。

対処

以下の手順で復旧してください。

サイト管理サーバのシステムダウン発生時は、サイト管理サーバが起動されていることを確認してから復旧作業を行ってください。

- 1) GUIより管理対象サーバノードの状態を確認してください。
 - 管理対象サーバノードがサーバグループに存在し、業務モードの場合
対処は不要ですので、これ以降の処理は実施する必要はありません。
 - 管理対象サーバノードがサーバグループに存在し、かつ保守モードの場合
管理対象サーバノードをサーバグループより削除し、2)以降の処理を実施してください。
- 2) 管理対象サーバノードがプールに存在する場合
サーバグループへの管理対象サーバノードの追加を再実行してください。

4.2.3 イメージの作成中または更新中に発生した場合

4.2.3.1 イメージ作成中の場合

現象

イメージ作成時にサイト管理サーバのダウン、またはフェイルオーバーが発生した。

対処

以下の手順で復旧してください。

サイト管理サーバのシステムダウン発生時は、サイト管理サーバが起動されていることを確認してから復旧作業を行ってください。

- 1) GUIまたはrcxinfoコマンドよりサーバグループの状態を確認してください。
 - サーバグループにイメージが設定されている場合
対処は不要ですので、これ以降の処理は実施する必要はありません。
 - サーバグループにイメージが設定されていない場合
イメージ作成処理が正しく完了していない可能性があります。2)以降の対処を実施してください。
- 2) Windowsの管理対象サーバノードの場合は、「2.5.1.2 操作B - Windowsが管理対象サーバノードの場合のIPアドレスの変更」の処理を実施してください。
管理対象サーバノード上で以下の対処を行った後、3)以降の処理を実行してください。

【業務OSがWindowsの場合】

以下の手順で Systemwalker Resource Coordinator Agent サービスを起動してください。

- ① 「コントロールパネル」 起動
- ② 「管理ツール」 起動
- ③ 「サービス」 起動
- ④ Systemwalker Resource Coordinator Agentのサービスプロパティを起動
- ⑤ 「開始」 ボタンをクリック
デフォルトゲートウェイの設定を行うために以下のコマンドを入力してください。
- ⑥ コマンドプロンプトを起動
- ⑦ 以下のコマンドを入力
route add 0.0.0.0 mask 0.0.0.0 192.168.2.1
下線部分には管理対象サーバノードのデフォルトゲートウェイのIPアドレスを指定してください。

【業務OSがLinuxの場合】

以下のコマンドを実行し、Systemwalker Resource Coordinator Agent デーモンを起動して

ください。

```
/opt/FJSVrcxat/sbin/rcxagtctl start
```

- 2) GUIまたはコマンドよりイメージ作成を再実行してください。

以下のエラーが発生した場合、イメージ名を変更してイメージ作成を再実行してください。

```
FJSVrcx:ERROR:67153:rcximage:イメージ名:already exists
```

4.2.3.2 イメージ更新中の場合

現象

イメージ更新時にサイト管理サーバのダウン、またはフェイルオーバーが発生した。

対処

以下の手順で復旧してください。

サイト管理サーバのシステムダウン発生時は、サイト管理サーバが起動されていることを確認してから復旧作業を行ってください。

- 1) GUIまたはrcxinfoコマンドよりサーバグループの状態を確認してください。
 - サーバグループに設定されているイメージのバージョンが更新されている場合
対処は不要ですので、これ以降の処理は実施する必要はありません。
 - サーバグループに設定されているイメージのバージョンが更新されていない場合
イメージ更新処理が正しく完了していない可能性があります。2)以降の対処を実施してください。
- 2) 作成されたイメージの状態をrcxinfoコマンドで確認してください。
Rcxinfoコマンドの実行結果として、作成対象のイメージが4つ(4世代)以上表示された場合は、以下のコマンドを実行し、サイト管理サーバのダウンまたはフェイルオーバーが発生した時刻に作成されたイメージを削除してください。
【Linuxの場合】

```
/opt/FJSVrcxmr/sbin/rcximage delete -domain domain -group group -version <削除対象の世代>
```


【Windowsの場合】
インストールディレクトリ¥Site Manager¥opt¥FJSVrcxmr¥sbin¥rcximage delete -domain domain -group group -version <削除対象の世代>
- 3) 管理対象サーバノード上で管理対象サーバノードの状態を確認してください。
3.2.3.1.2)の対処を実施後、3)以降の処理を実行してください。
- 4) GUIまたはコマンドよりイメージ作成を再実行してください。

4.2.4 イメージの配付中に発生した場合

4.2.4.1 イメージ配付時（ノード指定）の場合

現象

イメージ配付時（ノード指定）、サイト管理サーバがダウン、またはフェイルオーバーが発生した。

対処

以下の手順で復旧してください。

サイト管理サーバのシステムダウン発生時は、サイト管理サーバが起動されていることを確認してから復旧作業を行ってください。

- 1) サーバグループから対象サーバの削除

- 2) サーバグループへの対象サーバの追加

4.2.4.2 イメージ配付時（マルチ指定）の場合

現象

イメージ配付時（マルチ指定）、サイト管理サーバがダウン、またはフェイルオーバーが発生した。

対処

以下の手順で復旧してください。

サイト管理サーバのシステムダウン発生時は、サイト管理サーバが起動されていることを確認してから復旧作業を行ってください。

- 1) サーバグループから対象サーバの削除
- 2) サーバグループへの対象サーバの追加

4.2.4.3 イメージ配付時（ローリング指定）の場合

現象

イメージ配付時（ローリング指定）にサイト管理サーバのダウン、またはフェイルオーバーが発生した。

対処

以下の手順で復旧してください。

サイト管理サーバのシステムダウン発生時は、サイト管理サーバが起動されていることを確認してから復旧作業を行ってください。

- 1) GUI よりローリング対象の管理対象サーバノードのうち、保守モードになっている管理対象サーバノードがあるか確認してください。
 - 保守モードの管理対象サーバノードが存在する場合
上記サーバに対して、以下の処理を実施後、2)以降の処理を実行してください。
 - ① サーバグループより対象サーバの削除
 - ② サーバグループへ対象サーバの追加
 - 保守モードの管理対象サーバノードが存在しない場合
2)以降の処理を実行してください。
- 2) イメージの配付を再実行してください。
 - ※ サイト管理サーバダウンのタイミングによっては配付処理が完了している管理対象サーバノードが存在する場合があります。完了しているサーバに対する再配付は行われません。すべて配付完了している場合は以下のエラーとなります。
FJSVrcx:ERROR:67174:rcximage:Server node:not found

4.2.5 管理対象サーバノードの削除中に発生した場合

4.2.5.1 管理対象サーバノードをサーバグループから削除している場合 (Linux/Solaris)

現象

サーバグループからの管理対象サーバノードの削除時に、サイト管理サーバのダウン、またはフェイルオーバーが発生した。

対処

本現象はLinux/Solaris環境の場合に発生します。以下の手順で復旧してください。
サイト管理サーバのシステムダウン発生時は、サイト管理サーバが起動されていることを確認してから復旧作業を行ってください。

- 1) GUIより管理対象サーバノードの状態を確認してください。
 - 管理対象サーバノードがプールに存在する場合
対処は不要ですので、これ以降の処理は実施する必要はありません。
 - 管理対象サーバノードがサーバグループに存在し、保守モードの場合
サーバ削除処理が正しく完了していない可能性があります。2)以降の対処を実施してください。
- 2) サーバグループから管理対象サーバノードの削除を再実行してください。

4.2.5.2 管理対象サーバノードをリソースコーディネータから削除している場合

現象

管理対象サーバノードをリソースコーディネータから削除しているときに、サイト管理サーバのダウン、またはフェイルオーバーが発生した。

対処

以下の手順で復旧してください。

サイト管理サーバのシステムダウン発生時は、サイト管理サーバが起動されていることを確認してから復旧作業を行ってください。

- 1) GUIより管理対象サーバノードの状態を確認してください。
 - 論理リソース管理画面および、物理リソース管理画面に、削除しようとした管理対象サーバノードが存在しない場合、管理対象サーバノードの削除処理が完了しています。これ以降の対処を実施する必要はありません。
 - 削除しようとした管理対象サーバノードが論理リソース管理画面に存在し、物理リソース管理画面に存在しない場合、管理対象サーバノードの削除処理が完了していません。2)以降の対処を実施してください。



注意 削除が完了していない管理対象サーバノードに対して、対処を完了するまでその他の操作を行わないでください。

- 2) 再度、リソースコーディネータから管理対象サーバノードの削除を実施してください。

4.3 アンインストールに関するトラブル

アンインストール機能を使用する際に発生するトラブルの対処方法について説明します。

■ トラブル一覧

No.	現象	対象製品		
		Site	Domain	Agent
4.3.1	アンインストール中に「svccfg: No such property group ~」のメッセージが表示される。	-	-	S
4.3.2	『プログラムの追加と削除』からのアンインストール処理が正常に動作しない。	W	W	W

4.3.1 アンインストール中に「svccfg: No such property group~」のメッセージが表示される。

現象

Solaris10を使用されている環境ではアンインストーラを実行中に下記のようなメッセージが表示される場合があります。

```
"svccfg: No such property group "var_svc_manifest_system_fjsvutevm-utevhand_xml"
```

対処

動作上影響ありませんので、対処は不要です。

4.3.2 『プログラムの追加と削除』からのアンインストール処理が正常に動作しない。

現象

『プログラムの追加と削除』からのアンインストール処理を実行しても、アンインストール処理が正しく動作せず、『プログラムの追加と削除』から”Systemwalker Resource Coordinator”が削除されない場合。

対処

アンインストール中にシステムダウン等が発生し、アンインストール処理が異常終了した可能性があります。以下の対処を実施してください。

Systemwalker Resource Coordinator の CD-ROM をセットして、エクスプローラなどで CD-ROMのドライブ:¥manager¥win フォルダを開いて、setup.exe を実行し、アンインストール処理を起動してください。

第5章 トラブル調査情報の採取

本章では、トラブルが発生した場合に必要な調査資料の採取方法について説明します。

5.1 トラブル調査資料の採取方法

システムで何らかのトラブルが発生した場合、トラブルの切り分けや原因を特定するために、調査資料の採取が必要となる場合があります。

調査資料の採取方法については、Windows版は「Systemwalker Resource Coordinator ユーザーズガイド」の「E.1 調査資料の採取方法」を参照してください。（Linux版は「H.1 調査資料の採取方法」を参照してください。）